

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年はかなりの大人数の講義だった。これに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。ただやはり教室環境が狭い印象であり学生には申し訳なかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義の経験は多いけれど、今年度も達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中であつたように思う。授業者の体調、意欲、内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度もその数においてやはりBの上であつた。努力を重ねたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶える学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわ えてきたが、全員をかなりの集中度に持っていくのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。 がんばりたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義の道を究めるのは厳しい。今年度の達成状況の総括的評価はやはり3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートというのが私の持論であるが、授 業者の体調、意欲。内容の鮮度、それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができな い場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ね たい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の5割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「単位数確保」「関心のある内容」が主要な動機である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点が4.0、中央値も4.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。 単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の4番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたため、今後ぜひ継続していきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が4.0であることから、授業の進め方に問題はないと言える。平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れている。 * 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除していきたい。H30年度は、プログラミングエディタにおいて自動補完機能を導入し、入力時の負担を軽減できるようにした。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	3	前期	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は興味関心によるものと単位のためのものが半々であった。ただし、授業は歴史的事例の検討が中心となるため、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全学科平均点75.5点。看護学科平均87.5点。秀1、優1。 知識理解は十分満足できるレベルである。思考力を要求される設問にも答えることができた。 ただし、欠席が平均4.5回と非常に悪く、意欲態度の項目がないため全体的達成状況として「やや達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の傾向からすると受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回の好成績の要因として、受講動機の半分が興味関心にある点が挙げられる。欠席回数が多いことが問題であったが、テストの得点には影響していない。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解をするよう促した点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージしにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テストにはただ資料やレジュメを見直すだけでは対応できず、授業中の解説等を聞き、ノートを取らないと対応できない問題も複数含まれていた。その上での好成績という結果は、学生がある程度授業に集中してくれたことが原因だろう。今後とも学生の興味関心を喚起できる授業を心がけたい。 次年度も今年度同様の理解度が期待できるとすれば(興味関心という動機づけが必要だと思われる)、現代社会の理解のスキルを向上させるというより応用的な側面にも働きかけたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、2日で完結する集中講義、他大学との合同講義であるため、学年半数の学生が受講している。しかし、講義を実施するに当たり、受講する学生は、看護学科の学生だけでなく、他大学の学生も聴講するために、専門的な内容を控え、できるだけ、平易な言葉を使用した。また、高齢者を取り巻く社会情勢や高齢化率など一般的に周知しておく内容も組み入れた。また、PBLの際には、学生の主体性を重んじながら各専門領域の学生からの意見が尊重されるように声をかけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86.9であり、再試験者は無であった。 講義とPBLで行い、事例をもとに3大学の学生が高齢者がアクティブに過ごすための方法を検討した、他大学とのPBLは有意義であったととの学生の評価もあり、広い視野を持つことは専門職として重要であると考え、教育目標はおおめ達成されたと考える。しかし、PBLに臨むにあたっての事前準備を行っている学生は少ないことや、事例検討の際には図書館やインターネット等で調べる時間を設けていたが図書、雑誌を利用した学生は少ないという結果であったため、来年度は検討を要する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、総合人間学の位置づけであるが、他大学とのPBLに際しては、看護の専門性についても再認識できる科目であり、専門職としての協働を考えることができる科目であり、内容的に妥当であると考え。 また、看護者として基本的な知識をもとに他大学の学生との意見交換を行うなど、表現力を培うことにもつながっており、内容は妥当であるといえる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価では、評価基準の明確さや課題の明確さの平均が他に比べ3.9と低かった。そのため、評価の基準の提示の方法を検討する。また、授業に参加するための準備を行っていない学生がほとんどであり、PBLの課題の提示の方法や、図書、雑誌を利用した学生は少ないという結果などからも推奨図書などの提示も検討していく。PBLの事例の内容については情報を多く記載してほしいとの意見もあったが、情報量を多くすることで思考過程が煩雑になる可能性もあり、焦点を絞って意見交換を行う方がよいと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、総合人間科学に位置付けられているが、老年看護学や在宅看護学といった専門科目につなぐ重要な科目である。選択科目であるが約半数の学生が履修しており、3大学合同での科目に関心をもっており、今後の専門職としての多職種連携について学ぶためには重要な科目であり、概ね成績も達成していると考えられる。ただ、看護学科の履修人数が多いため、PBL時のグループ内のバランスが難しかった。しかし、選択科目であるために履修人数の把握が難しく、来年度は、できるだけグループ内の各学科の人数がバランスよくいくように配慮したい。また、課題の提示、図書の利用などPBL促進の材料になるように検討した。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅰは、内科疾患(循環器、血液、腎臓、消化管、肝胆膵、代謝、神経、感染免疫)と外科・麻酔科・婦人科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、外科・麻酔科・婦人科の講義は医療現場の専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験とポートフォリオ提出の総合判定で、平均値は79.5点(最高96点、最低58点)でした。秀:24名、優:40名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の56%でした。60点未満は1名でしたが、再試で60点以上でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、最終的には全員が標準レベルに到達したと判断しました。科目別でも、内科と外科・婦人科で平均点に大きな差はありませんでした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価が低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。昨年度は学生参加に関して評価が非常に低かったのですが、今年度からポートフォリオ提出を取り入れました。この項目の評価も改善傾向にあります。自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。ただし、外部講師の先生の授業で配布資料を希望する意見が多くありました。次年度は外部講師の先生にその点を伝えます。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約6割で、昨年より増加しています。また、図書館やネットを利用して勉強したひとの割合も増加しています。ポートフォリオ提出を課したことも理由のひとつですが、学生さんが積極的に授業に取り組んでいることを嬉しく思います。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。 4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。 なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、講義形式に統一性がない面がありました。次年度はさらに改善できるように努力したいと思います。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅱは、内科疾患(呼吸器、内分泌)、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、小児科と精神科は専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験とポートフォリオ提出の総合判定で、平均値は81.9点(最高99点、最低56点)でした。秀:27名、優:48名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の66%でした。60点未満は2名でしたが、再試験で60点以上でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、ほとんどの学生が標準レベルには到達したと判断しました。なお、内科の平均点が25.8点/30点で、小児科の平均点が24.9点/30点、精神科の平均点が21.3点/30点でした。以前に比較すると、分野により得点差が縮小しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価が低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。昨年度は学生参加に関して評価が非常に低かったのですが、今年度からポートフォリオ提出を取り入れました。この項目の評価も改善傾向にあります。自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。ただし、外部講師の先生の授業で配布資料や授業内容について意見がありました。次年度は外部講師の先生に希望を伝えます。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約7割で、昨年より増加しています。また、図書館やネットを利用して勉強したひとの割合も増加しています。ポートフォリオ提出を課したことも理由のひとつですが、学生さんが積極的に授業に取り組んでいることを嬉しく思います。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。 4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。 なお、本科目では内科、小児科、精神科の3名の教員が講義を担当しているため、改善はしているものの試験の難易度などに差が出てしまいました。次年度は全体の統一性を持たせるようにさらに努力したいと思います。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	現在の臨床現場で、検査は診断の確定、重症度の判定、治療効果の評価など、様々な場面で重要な役割を果たしています。看護師が自分で検査を行うこともあります。検査データから患者さんの病態を把握することは、看護を行うために不可欠です。看護師国家試験にも検査に関する問題は出題されます。 本科目では、血液検査や尿検査だけでなく、画像検査や生理検査など幅広い内容を対象としています。主要な検査項目の意味やデータの解析を説明するだけでなく、心電図、超音波、肺機能、検尿などの検査手技に関する演習を行って、臨床現場で「現物を初めて見た」と戸惑わないように工夫しました。また、疑似症例の検査データを提示して、そこから病態を把握する方法を解説しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「関心のある内容である」も約1割あります。授業を受けて本科目の内容が看護業務に直結するものであることを、学生さんは十分に理解してくれたものと期待しています。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験、レポート、授業貢献度を加味した最終成績の平均値は84点(最高98点、最低49点)でした。秀:46名、優:35名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の70%でした。例年より高成績です。60点未満は1名でしたが、再試験にて60点以上でした。 例年と同様に期末試験に教科書の持ち込みを許可し、教科書を見ながら提示された検査データを解析して患者の病態を把握する問題を中心に出題しました。知識理解だけでなく、思考判断の力を評価する問題になったと考えています。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。コミュニケーションや表現力に関する評価が低いのは、座学が中心の授業ですのでやむおえないところもありますが、次年度の課題にしたいと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。臨床検査に関する知識や検査データから病態を把握する力は、今後の看護科目の学びや将来の看護師業務に必要不可欠です。 成績結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。ただ、学生参加に関する評価が低いのが問題です。自由記述でも、演習で心電図の機器が不備で十分にトレーニングできなかったことを複数の学生さんが指摘しています。次年度は演習のやり方に工夫を加えたいと思います。DVDを使った授業や患者データによる病態把握の説明は肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは7割程度で、昨年度までより大幅に増加しました。また、図書館やネットを利用して勉強したひと大幅に増加しました。今年度から課題レポートを課したこともあるのですが、学生さんが積極的に授業に取り組んでいることを大変嬉しく思います。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、約2/3のひとが理想的レベルに、ほぼ全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 実際の検査手技の演習を行い、検査データから病態把握する方法を学んだことは、これからの看護学の勉強に役だったと考えます。 試験は例年と同様に教科書の持ち込みを許可し、検査データを解析して病態を把握する問題を中心に出題しました。学生さんの知識だけでなく、思考・判断の力を評価することが出来たと思います。試験結果をみると、思考・判断の力がやや弱点であると感じました。これからの大学生活で、目の前のデータから物事を考える力を身につけていって欲しいと期待します。 心電図の機器の修繕を含めて、次年度以降の演習の見直しと準備をしっかりと行いたいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大住 伴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬理学	2	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 医薬品は必ずしも全てのヒトに同じ作用が現れるのではなく、投与されるヒトの持つ様々な要因によって作用は異なり、時には主作用が副作用に変化することもある。臨床の看護の現場でも、教科書に記載されている作用以外に様々な作用(特に副作用や薬物相互作用)が現れることを理解して、臨床の現場に出た時に役立てて欲しいと願い講義を行った。 2. 15回という少ない回数で膨大な内容を教えなければならないため、要点等をまとめ、また、重要なポイントは敢えて空白にしたプリントを毎回作成した。 3. 各回の授業の疑問、質問等は出席票の裏に書かせ、次回の授業で必ずその疑問、質問に答えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	115名の定期試験の成績は、90点以上が30名(昨年度26名)、そのうち100点が7名、80～89点が39名(昨年度29名)で、昨年度より大幅な増加となった。一方、60点未満は2名(昨年度6名)で昨年度より大幅な減少となった。この2名も再試験で合格した。これより今年度は昨年度に比べ成績の良い学生が増加したと言える。しかし、授業中に熱心に聴き、学力も充分ある学生がいる一方で、理解力が不十分な学生も見受けられた。これは、薬理学の学力が不足しているだけでなく、薬理学の基礎となる生理学などの科目の学力も不足しているためと思われる。 学生の理解力確認のため単元毎に小テストを実施したいと考えるが、現在の講義時間数では、求められている内容を講義する時間さえ足りない状況で、小テストを行うことはできない。しかし、昨年度から、出席票の裏に質問事項等を書かせ、次の時間の最初にその説明等を行なった。学生の反応もよく、来年度も続けて行く予定である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目「看護を学ぶための基礎」であるが、基礎と臨床をつなぐ科目でもあり、国家試験の必修科目でもある。「看護を学ぶための基礎」では、看護の対象である人々を総合的に理解し、看護を実践するための基礎的知識・技術の習得および態度を育成するとともに保健・医療に関わる倫理観を養うことであるが、本科目ではその中の看護を実践するための基礎的知識の修得に該当する。 2. DPからみでの内容的妥当性 この科目で求められているのは、「DP1-2:看護学分野での基礎知識を修得している」であるが、前述のように、定期試験で115名中80点以上が69名、再試験で全員合格のため、内容的には妥当であったと考える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	毎回要点をまとめ、重要なポイントはあえて空白にしたプリントを作成、配布した。また、教科書の内容以外に関連するトピックスなども盛り込んで講義を行った。授 業評価の学生からのコメントに、「説明が ⁶ とても丁寧で分かりやすかった」、「短期間で少しでも私たちの質問や要望に応えようとして下さってありがとうございました」 とあり、喜びを感じた。ただ、1名の学生からは「しゃべるのがはやすぎる」という意見があった。来年度はこの意見も参考に講義を行なうことにする。 また、例年授業時間が足りな いことから、学生の疑問や質問に答える時間がなかったが、昨年度から、出席票の裏に質問や疑問を記載してもらい、全ての質問に対し、次の時間の最初に説明 等行なった。これに対する学生の反応が上記のコメントであるとする。学生の理解力のアップにもつながったと思われるため、来年度も続ける予定である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この科目に求められているDP「看護学分野での基礎的知識を修得している」は概ね達成できたとする。これをさらに達成するため、昨年度から始めた「出席票の 活用」を続け、講義時間が足りない中にも、学生の理解度を確認しながら講義を行なう考えである。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政論	2	前期	必修	いいえ	118

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会保険・社会福祉・公衆衛生の3つを柱として、看護職として医療機関や福祉施設、行政で活動するために不可欠な保健・医療・福祉の諸制度や法的根拠を解説している。中学・高校で学んだ内容が基盤であるが、看護学科の学生は法律や法律用語にかなりの苦手意識がある。受講動機を見ても、「必修科目である」から受講しているものであり、「関心のある内容である」は2.9%である。そのため、学生の「苦手」を前提に講義内容を組み立てている。 テキストを購入しているが、学生はほとんど読んでくることがない。毎回、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説している。講義の最後に出席シートに授業の感想、質問を記入してもらっており、書かれていた内容を見ると、「わかりやすい」と「全く分からない」の両方の意見があり、また、「スピードが速くてついていけない」と「ついていける速さだった」の両方の意見があった。このことから、どのレベルに焦点をあてて授業するかに苦慮した。全員にわかってほしいため、授業後に記入された質問には、紙面にコメントまたは次の授業で回答した。学生は授業中やみんなの中で質問することができないため、出席カードの質問は大事に扱っている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点72.1点（昨年71.4点）であり、再試験対象は5名（昨年13名）であった。成績の内訳は、秀 1名（昨年2名）、優 15名（昨年20名）、良 62名（昨年46名）、可 37名（昨年35名）、不可 2名（昨年4名）（うち再試験未受験 1名）であった。 テストは、暗記で回答できる部分とと、暗記だけでは回答できない事例を使って問う問題を作成している。本科目は、新カリキュラムでは名称・内容・開講時期とも変更になる事を、事前に学生にインフォメーションしていたことと、授業内で実施した事例であり、複数回説明をしたことで理解できたのか、再試者が昨年に比べ少なかった。 レポートは、「形式」「独自の考え」「根拠」「一貫性」「提出期限」を指標に採点した。文献を使って書いているが自分の考えの根拠とする使い方がなされておらず、独自の考えを書いている人も少なかった。そのため、レポート点に差があった。自由記載で「レポートの出す時期がギリギリ」といったコメントをいただいた。最終講義に提出としたことに不満があったと思われるが、シラバスにはレポートの存在を明記しており、また、他の科目の提出物等と調整して提出日の2週間以上前に提示したことから、ギリギリという表現は違っていると感じる。しかし、レポートの存在について、初回講義だけでなく複数回の説明が必要だったかもしれない。しかし、法律の授業でありなが半数以上が図書館を利用し、学術データベースを利用していることは、らレポートを作成したことが影響していると考え。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護を学ぶための基礎に位置付けられている。そのため、社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、について「知識・理解」を得るために解説し、事例を通して「思考・判断」をしていく授業展開にしていた。具体的には、2～3回分の講義内容について、事例を通して振り返りをし、知識の確認と実際の対象の状況を考えていくように取り組んだ。 また、看護学を学んでいくための基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても一定数の問題が出題されている。そのため、「国家試験にはこう出る」という練習問題を実施していた。今後も、自分や家族にも関連した制度であること、自分の生活にも関係することとしてイメージできるように解説していきたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスには予習、復習を提示しているが、30分以上の予習、復習をした回数が0回と答えている学生が全体の3割、1回と答えている学生が2割以上あった。しかし、7回以上の予習復習した人も2割おり、自己評価で「知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた」が4.0と学科平均を上回っていることから、身近なこととして興味をもって取り組んでくれたものと感じている。 一方、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.4と極端に高い。講義の進め方としては、一方的に教える形式であったため、学生同士でディスカッションできる方法を取り入れるなど、講義方法を工夫していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護活動には、保健・医療・福祉の制度が不可欠である。学生にとって法律について苦手意識があるが、科目の重要性を説明して主体的に学んでもらえる動機づけをしたい。また、授業のねらい、達成目標、評価基準を共有し、学生自らが学ぶ目標をもてるようにしていきたい。その結果として、「知識・理解」と事例に対応できる「思考・判断」の達成度が上がる事を目標としたい。 授業展開については、一方的な講義形式にせず、学生同士で話し合ったり確認し合ったりすることを加えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	吉武 由彩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と家族	3	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、必修科目であるが100%である。現代社会と家族について社会学の観点から学ぶ本講義は、看護学科の学生にとってはなじみがないものと思われる、実際に授業中に全体に尋ねたところ、これまでに社会学の講義の受講経験がある学生はいなかった。そのため、3年生の授業ではあるが、初学者向けとして、社会学の基礎的な知識から丁寧に確認することを心がけた。また、現代社会と家族に関する社会学の観点からの授業がどのように看護という現場につながるのかを折に触れて言及するように心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ほぼ全員が理想的レベル(80点以上)に達しており、再試験対象者は0名であった。また、学生の授業評価アンケートを見ても、「自分なりの目標を達成した」について、肯定的な評価(「かなりそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「まあまあそうだと思う」)をした層が大半を占める(87名)。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」についても、肯定的な評価(「かなりそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「まあまあそうだと思う」)をした層が大半を占める(88名)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は3年生の必修科目である。学生の受講動機を見ると、必修科目であるが100%である。看護学科の学生にとっては、社会学は全く馴染みがなく、必修であるから受講している学生が全員であり、動機付けに苦慮する点がある。社会学の基礎的の丁寧な確認や、現代社会と家族に関する社会的知見がどのように看護の現場につながるのか折に触れて言及している。期末試験の結果を見ても、ほぼ全員が理想的なレベル(80点以上)に到達している。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	改善課題として、学生の授業評価の中で指摘があったのは、第1に教科書の事前購入である。事前購入できるように申請をしていたがそれが通っていなかったという問題があり、1か月程度教科書がない状態での授業になった。こちらは担当者としても改善してほしい点である。第2になぜ看護学科の3年生の必修に本科目が設定されているのかわからないという点である。この点については、将来的に看護の現場で働く際に本科目の知識がどのように活かせるか折に触れて言及することを心がけていた。しかし、看護学と社会学はそもそも科目としての性格が異なる点があり、必修ではなく自由選択科目とした方が良いとの意見ももちろんあると考える。ただし、カリキュラムに関わる点については非常勤講師である担当者から回答することはできないので、回答は差し控えたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体として、本科目では、看護学科の学生に現代社会と家族に関する社会学的知見を伝えるという難しさがあった。上記ですでに示したようにいくつかの工夫をしてきており、ほぼ全員が理想的レベル(80点以上)に達していた。とはいえ、必修で100人を超える授業でもあり、そもそもの受講動機が必修科目であるが100%という中、授業を進めていくことの難しさがある。今回特に学生から指摘があった改善課題2点については、いずれも担当者が対応できる範囲を超えているが、そのほかにも担当者が対応できる範囲で、より看護の現場にいか本科目の知識がつながるのかに関する言及を増やすなどしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	LGBT(性的少数者)や自閉症スペクトラム、学習障害など人間の発達に関する様々な課題が出てきており発達心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。良しの合格点を取った学生はほぼ9割以上に達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになり、分かりやすかった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	従来の私の講義科目では「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いとの授業アンケートの結果だが、やはりこの観点からの学習量を高める工夫が必要であると実感した。今後さらに試行を継続してみたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶えるような学生が幾人か存在する。注意の仕方や学習の進め方に工夫をくわえたい。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
診療関連技術論	2	前期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「必修科目」(100%)であり学生に選択の余地はないが、「資格取得に必要」(10.1%)、「関心のある内容」(7.1%)、「単位数を確保する」(7.1%)も認めており、学生の技術習得への関心がうかがえる、また1年次後期の生活援助技術論からの技術演習であるため、学生の授業準備性は概ね整っていたといえる。授業の実施に対して重点をおいたことは、リアリティの追及である。臨床における医療は進化し続けており、技術提供に関する器材や方法も変化している。学生が演習で学んだことを実習等で活用できるように、極力臨床と同じ道具を使用するように心掛けた。またアクティブラーニングを心がけ、「教えて考えさせる」に重点を置き、技術の遂行のみに学生が集中しないよう、根拠を思考できるように演習記録等を作成し授業を構成した。また昨年同様、できたことは褒め、出来なかったことは、なぜできなかったのかを共に考えるようにし、学生のモチベーションを高めるように努力した。さらに、自己評価のチェックリストを作成し、自分の学びを振り返る機会を設けるとともに、疑問がある場合はその左記の用紙に自由記載してもらい、その後回答をまとめ、Kaname.netを活用し学生にフィードバックすることを心がけた。学生のコメントにも「質問に対する回答がとても詳しく、疑問をその都度解決することができた」とあり一様の効果はあったと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験:60%、レポート等の提出物15%、総合演習への取り組み25%による総合評価としている。最終成績の平均値は71.03±7.36点(最高88点、最低51点)であった。成績の内訳は、秀0名(0%)、13名(11.5%)、良57名(50.4%)、可37名(32.7%)及び不可6名(5.3%)であった。不可6名のうち、1名は再試験も不合格となった。左記の内訳は昨年度よりも悪い傾向にある。この最大要因としては、昨年度は実技試験として口鼻腔吸引を行っていたが、吸引の実技を学生が行う機会が実習でも皆無であることから、実習等での活用を考え、今年度より患者状況を設定しての診療関連技術を活用した総合演習に切り替えた。その結果、実技だけ行えばよかった昨年度よりも、今までの学修の知識を活用しての思考を求められることとなり、全体的に点数が伸び悩んだと言える。しかし試験だけの点数だけをみると、100点満点中、平均は71.32点で、昨年度の63点台と比較すると高く、「知識理解」においては昨年度よりも向上させることができたと判断する。学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3)の順に、全項目において4.1以上であった。以上より、本科目で「学生が達成すべき行動目標」は、全体的には「達成された」と判断したが、思考や技術に関しては課題が残ると判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「診療の補助」の基本的知識と技術の基本となり、看護実践の基本に位置づけられるが、、診療の補助ということで、生活援助技術論よりも高い技術が必要である。よって2年前期の位置付けられていることは妥当である。しかし今年度より総合演習を組み込んだが学生の思考の達成は不十分であり、また授業時間にも限りがあり、その中で高度な診療関連技術を習得するのは難しかったといえる。知識の定着面では内容の妥当性は保証できたと考えられるが、思考面の妥当性を高められるようにさらに改善を行いたい。本科目は演習中心の科目である。科目履修後の学生評価は、学生の到達度自己評価においてもすべて4.0以上を示しており内容的妥当性は概ねありと判断する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質については、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.3)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.3)、「説明は理解しやすいものであった」(4.2)は4以上の評価であったが、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(3.9)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(3.8)、とやや低い評価であった。学生より情報提供が遅いとの意見もあったが、授業が火曜日であったため、通常は金曜日、遅くとも月曜日の朝にはKaname.netにはアップしており、当日提供は行っていない。また評価基準に関して、ルーブリック評価表を領域内で話し合いのもと作成し、総合演習の際は、事前に提示しており、あいまいとは思えない。しかし今回より導入した総合演習が、もっと学生にとって思考しやすいものとなるよう改良する必要があると考える。さらにアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生が常に考え思考が持続するような演習方法の検討が必要と考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習量の評価としての「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらいしたか」の回答は、「6回」26人、「4、5回」34人、「2、3回」36人、「1回」8人、「0回」4人で、同様に「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらいしたか」についても、「6回」29人、「4、5回」29人、「2、3回」38人、「1回」6人、「0回」5人で、これは昨年度と比較すると、予習・復習を行った学生ははるかに多い状況である。各演習記録の振り返りや、総合演習等の課題への取り組みなどを通して、学生にとっては大変だったかもしれないが、学士を取得すべき学生のあるべき姿には昨年度よりは近づけることができたと言える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当該科目は「必修科目」(100%)であり、「資格取得に必要」(8.1%)な科目であるため、「単位数を確保する」(6.3%)ために学生は履修せざるを得ず、そもそも学生にとって「関心のある内容」(4.5%)とは言い難い。そうした学生の主体的学習を促すために、これまで①看護学科SNS(kaname.net)を利用して授業進行・授業内容を事前に提示する、②学修到達目標とグループワークの進捗状況に照らした講義・グループワークを展開する、③学生の主体的学習参加と予習を促す目的で、講義資料等は全て事前にkaname.netにupする、④授業後の学修の振り返りとして「おさらいテスト」を設け、知識の確認を促す、さらに、今年度は⑤学生の理解度の確認と広く質問等を受け付けることを目的に、コース上に「本日の授業に関するフィードバック」を増設し、参加者からのフィードバックを収集するようにした。⑤への応答は、個人に向けては配布資料、全体に向けては翌週の授業開始時に伝達し、内容の共有を図った。また、⑥学生個々の学習動機や意欲の高揚、終講までよい意味での緊張感を維持するために、折々にグループの学習成果を発表する機会を設け、グループ間の積極的なディスカッションの場とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	筆記試験の平均は69.5±9.77点で、昨年度を4ポイント近く下回った。筆記試験で標準レベル以上の者は73/115(48/102)名、うち理想レベルに達した者は22/115(24/102)名、努力を要する「可」レベルの者は38/115(21/102)名、筆記「不可」の者は3/115(9/102)名であった(カッコ内は昨年度筆記試験の結果)。その他、長期欠席で受験失格となった者が1名いた。目標達成状況としては、標準レベル以上の学生数が昨年度を大きく上回ってはいたが、一方で、「可」レベルの学生が全体の3割を占めていた。 科目の最終評価は、例年同様、筆記試験(50%)、個人学習(20%)、学習成果発表(10%)、記録及び学習貢献度(20%)による総合評価とした。総合評価のクラス平均は72.4±7.65点(最高 90点、最低 51点)で、115名中の合格者は112(97/102)名、再試験該当者3(5/102)名及び長期欠席による要再履修者1名の結果であった。なお、再試験該当者3名については、後日、筆記による再試験を実施、3名中2名は合格、1名は不合格となった。 最終成績の内訳は、秀 2名、優 20名、良 51名、可 40名で、学生115名(再履修者1名を含む)中113名が2018年度当該科目の履修を修了、残り2名が再履修となった。以上の結果より、知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)の到達度は「やや達成された」、グループワーク等の学習貢献度については、意欲関心 (DP3)、態度 (DP4)に個人差が大きく「どちらともいえない」、また、学習成果発表時の技術力、表現力、説明力等、技能表現 (DP5)については「やや達成された」と判断した。 学生による授業評価アンケートでは、到達度自己評価の「自分なりに目標を達成した」について、「かなりそうだと思う」(18.4%)、「わりにそうだと思う」(52.6%)が全体の71.0%、「まあまあそうだと思う」(28.9%)を含めると、回答した学生全員が「ほぼ達成できた」と自己評価していた。前述の成績評価(秀:2名(1.7%)、優:20名(17.4%)、良:51名(44.3%))と合算すると、全体を通しての評価は「やや達成された」とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 授業では、看護師の思考の軸となる「問題解決的思考」や「クリティカルシンキング」について学び、看護実践の方法論である「看護過程」展開の基本を習得する。さらに、後期以降の「看護実践の応用・展開」の基盤となる科目として、基礎と応用を繋ぐ「要」の役割を担っている。 通常、1年次後期に「基礎看護学実習Ⅰ」を経験した学生達は、臨地での看護体験をもとに自らの強みや傾向、課題を発見するとともに、2年次前期からの看護専門科目への興味関心を高め、そのことが学習動機へと繋がっている。しかし、今年度の授業を振り返って思うことは、学生による授業評価アンケートの結果とは矛盾するが、クラス全体の印象として、看護専門科目を学ぶことへの関心意欲をあまり感じとれなかった。従って、グループの学習活動を主体的・積極的な学びに繋げることが難しかった。関心意欲を感じとれなかった要因としては、学生個々の他者への関心の薄さ、コミュニケーション力の不足、自己中心的な言動・思考、グループワークが苦手・嫌い、他者と協働・連携することへの意識の低さ、などが考えられる。よって、学生の目標達成状況を、全体を通して「やや達成された」、知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)は「やや達成された」、グループワーク等の学習貢献度は、意欲関心 (DP3)、態度 (DP4)ともに「どちらともいえない」と判断した。なお、学習成果発表時の技術力、表現力、説明力等、技能表現 (DP5)については、ようやくチーム力を発揮できたグループが多かったので「やや達成された」とした。 授業内容は、CP、カリキュラムマップ上の位置づけに対応したものであったと考える。ただ、2年次生のレディネスに沿った事前学習課題の提示、復習のための「おさらいテスト」の準備・公開、フィードバックによる意見の吸い上げ、また、GW成果発表の企画など、学生が主体的・積極的に学ぶための工夫を様々行ってはみたが、昨年以上に高まった学生の意欲関心は低く、授業毎の学習成果の可視化や発表の機会を数、関心者にも限定された。今年度の学びが学生全体に浸透し、活発
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業はグループワークとその進捗に合わせた講義の組み合わせで行った。事前準備としての課題学習への取り組みでは、殆どの学生(105/115)が図書館を利用(91.3%)し、学術データベースを利用する者も多くいた(61.7%)。しかし、インターネットのHP利用者も相変わらず多く(82.6%)、信頼性や内容妥当性を保証する情報の取得という点では課題が残った。 授業の質評価においては、5項目中「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.2/4.0)と「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.4/5.0)の評価が高かった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(3.4/3.0)も中央値より高かった。最も低かったのは「説明は理解しやすいものであった」(3.6/4.0)であった。各平均値は前年度とほぼ変わりなく、学生の主体的学習を促す教員側の働きかけに一定の評価は得られたと考える。但し、十分な内容理解が得られたかについては「どちらともいえない」。 学生の意欲関心という点で、昨年度に比べて看護学科SNS(kaname.net)の利用者数は少なく、授業が進むほどに、繰り返し閲覧し学びを深めようと努力する学生は固定化していった。学生の中には初回の閲覧で途中放棄し、そのまま最後まで閲覧せずに終わった者もあり、今年度のクラスの特徴として、「進んで学習に取り組む群」(少数)と「殆ど自主学習には取り組まない群」(大多数)に大別された。 2年生全体の【意欲関心】【態度】に関して、学生の自由記載欄は、殆どが担当教員やグループ・メンバーに対する批判的意見—例えば、教員個々の学習進度・意見の違い、教員の指導内容や指導方法への不満、グループメンバーへの不満、正規の時間外で求められる課題学習への不満、学習成果発表の時期や進め方への不満、課題の提出時期や方法への不満など、を上げられていた。例年「先生によって言うことが異なる」「教員の理解度が違って、質問しづらい回答が返ってくる」
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートより、科目履修後の学生は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.3/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2/4.0)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.2/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.1/4.0)とし、「自分なりの目標を達成した」(3.9)と評価していたことから、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」とした内容、即ち、知識理解、思考判断については「やや達成された」と判断した。意欲関心、態度については、グループワークでの「やや達成されていない」状況と学生の自己評価「自分なりの目標を達成した」(3.9)から「どちらともいえない」と、また、技能表現については、学習成果発表での「概ね達成された」状況と学生の自己評価(3.9)を合わせて「やや達成された」と判断した。 授業の質評価においては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.2)の2項目が4ポイント以上であった。残り3項目は、「説明は理解しやすいものであった」(3.6)、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(3.5)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(3.4)、と昨年度より低く、自由記載欄の教員や指導体制への批判的意見をよく反映していた。意欲関心という点で、学生の主体的学習を促そうとした教員の意図は、学生の多くに十分伝わっておらず、このことを含めて「どちらともいえない」と判断した。 看護師の患者の世話した？「看護過程論」に対して、前年度自己評価を「自分なりに目標を達成した」とした学生は111/114名(97%)であった。その中訳は「わかり
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	2	前期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生の前期科目である。学生の受講動機は、2015年より2018年まで、例年変わらず「必修科目である」ことが、ほとんどの学生の動機であり、「関心のある内容である」は、例年5%程度であるが、今年度はさらに下がり、1.9%となっている。 そのため、第1回の授業では、シラバスによる説明をパワーポイントで重要な部分が理解できるよう配慮し、本科目を学ぶ意義について説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明し、加えて、出席票をA4サイズとし、毎時の授業で重要と理解した点について、意見を記入する様式に変更した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.4点であり、再試対象者は4名であった。標準的レベルに達した学生が96.5%であった。内、理想的レベルに達した者は38.3%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては74.7%(2017年度72.5%・2016年度70.0%)、思考判断に関しては76.0%(2017年度77.7%・2016年度86.0%)、意欲・関心に関しては78.0%(2017年度66.0%・2016年度93.7%)、態度に関しては78.0%(2017年度94.0%・2016年度87.8%)であった。知識理解に関しては上昇しているが、思考判断及び態度に関しては下降している。 今年度は、公衆衛生看護学の知識理解の検討に力を入れた結果、獲得割合は上昇したが、思考判断に関しては、更なる検討が必要と考える。 学生による授業評価においては、到達度自己評価では、例年受講動機における関心の低さに比べ、全体的に関心を示している状況が伺えるが、本年も同様の傾向がみられた。保健師選択希望者の動向からも学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。 授業の質評価の項目において、「説明は理解しやすいものであったか」については、(まったくそうでないと思う・少しそうでないと思う)と理解しづらしさを感じていた学生が8.7%いることがわかる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、すべての項目が2018年度3.5から3.7(2017年度3.6から4.1・2016年度3.2から3.6)であった。理解しやすい授業を構成する努力は続けていくことと、学生の主体的参加を試行していくことが必要である。 教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。 受講動機から授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を今後も目指したい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教育課程においては「看護の基本」に位置づけられている本科目の役割は、果たすために、受講学生全員の達成状況を上げること、そのためには学生自身が主体的学習者として、関心をもち、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善を今後も図っていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今後、本科目は新教育課程において、2年生前期から1年生後期へと変わる。初学者である1年次の学生が公衆衛生に関心を持ち、生活者の看護を必要性を理解できる授業を検討したいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	前期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護の必須科目であり受講動機も100%必須科目と解答をしている。また、この科目への関心は6.9%と例年に比べ少し高くなっているが割合としては相変わらず低い、まずは関心を持てるよう引き続き工夫が必要と思われる。学生の準備性としては、小さい子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくい。ため子どもの成長発達なども、具体的な数字や例を挙げ、また出来るだけ視聴覚教材を使って説明した内容と実際に関連づけられるような工夫を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は84.9点であった。再試対象者はいなかったが、受験資格なしが1名であった。(出席日数の不足のため)。60点台(可)が8名で、80点以上は90名(秀:32名、優:58名)と80.0%の学生が理想的レベルに到達していた。概論では、知識理解に関する修得割合が高く、覚える部分が多くある。知識理解に関して81.9%と理想的レベルにはなんとか達している。これは短期記憶に由来するものも多くあると思われるので、小児を理解する基礎として、繰り返し実際の映像や子どもの状況と結びつけながら確認していくというこちら側の働きかけも必要であると考え。思考判断については、99%であった。これは、試験の内容がレポートの内容と重なっていたため高得点になったと考えるが、自分の考えを学んだ知識を生かして考えることができていた。また、受講動機では、関心のあるものが1名であったが、到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.0と受講後関心を持つことができ意欲関心については目標は概ね達成出来たと考える。試験結果のみから見れば、ある程度目標は達成できたと考えられるが、標準レベルに最低限到達できたものも1割弱いて、自分の目標には達していないと感じており、できるだけ、これらの学生にも理解できるよう授業の工夫・改善をやっていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方を学ぶための教科となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は1名と少なかったが、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識理解は81.9%、思考判断は99%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全体的に3.9から4.2と評価されていた。秀・優の学生 の数が増えているが、それ以外の学生が更に理解を深めることだ できるようわかりやすい授業の工夫や知識の定着に向けての工夫が 必要と思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。これらの知識・考え方を概論に続く小児看護方法論へとつないでいくことで、知識理解、思考判断を強化していきたい。 8回の授業では限界があるが、引き続き他の学生との話し合いの時間を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を増やしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、100%が「必須科目である」ためで、関心のある内容と考えている学生は、1.9%であった。これらは毎年の傾向であるため、より積極的に関心を持って参加出来ることを期待し少人数(3～4人)のグループを組むことを今年も実施した。本科目は、3年後期から始まる臨地実習に向けて看護実践のための知識・技術・態度の準備状況を整えるための科目である。これまでの知識を統合して患児家族の状態を判断し、看護計画をたてられるように、臨床場面を想定したペーパーペーシエントを使って、グループワークを中心に学習を進めていくようにしている。今年度も病棟で学生たちが受け持つ可能性が高く国家試験にもよく出題されるような疾患で小児の各発達段階を考慮した事例展開を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	最終的な成績の平均点は、80点(秀:4名、優:60名、良:37名、可:7名)であった。また技術テストは全員合格している。目標別にみると、思考判断76.3%、関心意欲74.6%、態度78.6%、技能表現89.0%と概ね達成状況にあると考えられる。技術テストに関しては、昨年度は技術演習からテストまでの期間が短かったため、テスト項目を少なくしたが、今回は時間もある程度取れたため、従来のテスト項目に戻した。再試者は、9名で全員合格している。また思考判断は7割台となっており、さらなる目標達成に向けてわかりやすい授業内容の工夫が必要と考えられる。技術演習については、今年度も4年生の看護総合演習で小児看護学を選択した学生6人にティーチングアシスタントを依頼し効果を得ていた。3年生、4年生共に学習効果が上がったと振り返りの中で発言があった。					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	学生の自己評価では、各項目でまあまあそうだと思うからかなりそうだと思うまでを含めると「職業選択の参考になった」以外は100%の学生が肯定的な評価をしている。また、授業評価では、説明が理解しやすいか、期間内の学習の範囲や課題が明らかか、提出物等の評価・基準が明らかかというところで、少し分かりにくいと評価している学生がいるため、さらなる改善が必要と思われる。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。必須科目であり、関心を持って選択したのは2名であるが、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 思考判断、意欲関心、態度、技能表現ともに70%～90%以上であり、ある程度の目標は達成されており、妥当であったと考える。ただし、DPの中でも思考判断が70%と低いため、改善に向けての課題を残している。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には、問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	グループワークを通して看護過程の展開を理解していく方法を主としている。この方法は他人の考え方を知って視点を広げ学ぶというメリットもあるが、一方でグループメンバーに任せっぱなしになってしまい、自分ではよくわかっていなくても、グループとしては看護過程が出来上がっているという状況もみられるため、個人の理解度を明確に把握できない欠点もある。これについては、グループごとに自分たちで協力するにはどうしたらいいか、公平な分担をどのように確保するか工夫をしながら進めてもらい、ピア評価を取り入れて多少貢献度の修正をしている。また、学生からの意見で、3人が少なすぎるという意見もあるが、ちょうどいいという意見もあり、学年の特徴を考慮しつつ今後も検討を重ねていきたい。事例展開の方法は去年と同様の方法で、できるだけ時間内にグループワークを行い、いくつかのグループに発表をしてもらいながら、1つ1つ段階を踏んで理解を進めていけるようにした。その後模範解答を提示し、各自内容を確認できるように配慮した。更にきめ細かな指導を考えていきたい。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	いない学生が約1割～2割いるというのは、グループワークの時間を授業枠内に何回か入れているため、その時間内に進行の早いグループは、自分たちの予定したところまで進んでいると判断し、あまり準備をしなくてもその時間内に終わることができていることも考えられる。また、他の教科の課題と重なると学習が忙しくなり、事前学習も、手短かに教科書の一部をみるだけで済ませてしまいじっくりグループメンバーで検討することが少なくなっていることも考えられる。授業評価の自由記載から、提出物のスケジュールを表にして提示して欲しいという希望があった。1回目のオリエンテーションで配布した記述のみのものでは、不十分な学生もいるようで、次回から事前学習の内容や各回の到達目標の提示、提出物の内容、期限等についてもわかりやすくなるよう改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。目標は、全般的に一定の達成度を得たが、思考・判断領域に関しては引き続き課題を残している。毎年試行錯誤ではあるが、学生のつまづきを早期に見つけ、個別またはグループでの指導方法を取り混ぜながら自分で考えていくための方法を習得できるよう教員間での情報共有も積極的に行いたい。 ・技術テストに関しては、実施内容・方法の再検討や、練習時間の確保等、引き続き改善を図りたい。 ・グループワークを進める際に、理解が困難な内容については、引き続きより分かりやすい言葉や、具体例などを用い学生の理解を促していきたい。また、提出物の内容・期限については、一覧表にして授業開始時に配布するようにする。 ・グループワークの時間配分や進め方についても、学生と教員間で積極的な質問・意見交換が出来るような工夫など取り入れたい。
-----------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、母性看護方法論に引き続き、母性看護学実習に必要な母性看護技術や看護過程の方法を習得することを意図して技術演習と看護過程演習を計画した。看護過程演習については、他教科の課題を考慮し、看護過程をまとめる時間を講義内で確保するために個人ワークの時間を設けた。また、新たに講義時間内の解説をスムーズに理解できるよう事前学習を講義前に実施した。課題については、看護過程の演習において関連のある項目を挙げ、教科書や母性看護方法論の講義で配布された資料を参考にできるよう、該当するページや資料を具体的に提示した。さらに、講義内でグループディスカッションを実施し、意見交換や質問を通して理解を深めることをめざした。講義時間内は、学生を5グループに分け学生からの質問に迅速に対応し、理解が図れるよう各グループに担当教員を配置した。看護過程の事例については産褥期・新生児期に絞り、さらに情報量を見直し、収集すべき結果を明確にし視点にそったアセスメントの方法について理解が深められることを期待した。 技術演習については、沐浴を中心に母子に必要な支援技術絞り実施した。沐浴については、技術試験にそなえ学生が講義内で練習し、不明な点を教員に確認できるよう担当教員を配置し、技術の取得や理解に努めた。 また、講義の初めに出産を控えた夫婦を撮影したDVDを視聴し、周産期の女性やその家族の実際をイメージすることで母性看護に興味を持って臨むことを期待した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であり、再試対象者は1名であった。ほぼ全員が標準レベルに達した。さらに、73%が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。 DP別にみると、知識理解に関しては80%、思考判断に関しては76%、関心意欲に関しては87%、技能表現に関しては95%であった。 全ての目的において数値的には目標達成できていると思われるが(中央値は3.0-4.0点)、個々でをみると個人差が大きく、到達度自己評価や、授業の質においては「そうでないと思う」と回答する学生がみられたことから、思考判断は十分達成されなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「看護実践の応用・展開」に属し、周産期に属する対象者に必要なケアを提供する能力を育成するための必須科目でる。学生は一定の成績をおさめていることから内容的妥当性は問題ないとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今回は、課題の範囲を示し、講義内で解説を行い統一した理解を図るため、課題の結果をもとにディスカッションをもち理解を深められることを目指したが、グループ人数・学生の進捗の差などにより効果的なディスカッションに至らなかった。また、説明が理解しやすいものではなかったという意見もあった。このことから、今後はディスカッションを実施する前に個々に対応した理解を図ることが必要であるとする。 技術演習については、ほぼ全員が目標達成できているため、方法については妥当であったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的には目標達成できていると思われるが、個人差もみられることから、今後は受講者全員が満足した講義であるように、講義内容や進行方法について学生の意見を取り入れて改善していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門科目である成人・老年看護学概論は2年次前期の必須科目である。例年「わかりにくい」という学生の反応があることから、ガイダンスでは科目の位置づけを詳しく説明し授業を進めた。看護の対象理解において青年期から老年期の発達課題の特徴、成人期・老年期の人々に関連する保健・医療・福祉における動向や疾病の特徴、成人期や老年期における看護の特徴について解説し、そこにおける課題と活用できる看護理論について教授した。毎回、授業の「ねらい」を伝え、既習の学修が想起できるように発問を繰り返し、また毎回「学びと気づき」を学生の声として確認し、次回、学生にフィードバックしながら授業を進めた。理解を深めるために身近な事例を提供し、関連づけながら解説した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は76.8点、、最高点は91点であった。理想的レベル(80点以上)は43人(37.7%)いた。対象理解の基本となる概論で、成人期はその範囲が広く、内容も多岐にわたる。言葉の暗記に頼りがちな学生に「覚えること」から「考えること」へシフトできるよう出題方法を変更するなどし、その結果、再試験対象者は3名であった。再試験申請者の2名は表示標準レベルに到達できた。「知識・理解、思考・判断」 77.3%「関心・意欲」 85.3%であった。到達度自己評価では「自分なりの目標達成」では98%と達成度は高い。しかし、授業の記録を全くとらない学生が5名おり、予習・復習を全くしない学生も28%程度いる。学生の学習の準備状況と発達段階を踏まえ、具現化し理解が深まるような教授方法や教材の工夫が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、必須科目である。成人期・老年期の具体的方法を学ぶための導入科目である。受講動機として資格取得に必要である」が4人、「関心のある内容である」が2名と少なく、特別な学習動機は把握できなかった。最終成績評価では理想とするレベルが43人(37.7%)あり一定の結果を得ている。内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 本科目の行動目標として①成人期・老年期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健。医療、福祉システムの概要、④成人期・老年期の健康障害の特徴、⑤成人期・老年期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期老年期に活用できる理論・モデル、⑦加齢による心身の変化に対応した生活機能、援助の意義と方法をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。これを基に達成度を見たところ「知識理解」「思考判断」は77.3%であった。再試験対象者も少なく評価点は向上した。実践応用に向けた思考の深まりは今後の課題とし、目標は概ね達成されており妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	成長・発達として成人期・老年期が連続体として考えられるよう、意図的に課題を課しながら進めた。また、成人看護学概論においては毎回気づきや学びをミニレポートで確認しながら進め、学生にフィードバックを行った。学生の自己評価では達成度が高いものの、興味・関心を抱き、意欲の向上に向けた更なる取り組みが必要である。授業の質評価では各項目の平均値が昨年度より低下している。さらに上方移動する努力が必要である。また、学習量の評価では予習・復習とも(0)と答えた学生が28%程度いる。課題を課す以外にも学習を促すための働きかけが必要と考える。学生には後期の成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護方法論につながる科目だということを強調し、方向性を示しながら具体的な内容について調整を行い、今後も講義に臨みたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は専門教育科目の成人期・老年期看護学の導入科目である。最終的な成績や目標別の到達度とも一定の成果をえた。また、99%の学生が到達度自己評価において肯定的な評価をしている。しかし、「知識」「思考判断」が77%程度であり、後期に開講される各論で強化していく必要がある。概論は抽象的な概念を解説するため、次年度は授業の準備性を高め、学生の理解を確認し、且つわかりやすくポイントを押さえた講義が出来るよう内容と進度の検討を行っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リハビリテーション看護学	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「リハビリテーション看護学」は、既習の形態機能学、疾病学、成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護学などと関連する科目で、急性期疾患だけではなく慢性期疾患におけるリハビリテーション看護について構成している。また、理学療法士、摂食・嚥下認定看護師を外部講師による技術演習を取り入れた。 「必修科目である」100%と最も多く、次いで「資格取得に必要である」8.2%、「関心のある内容である」1.0%と低かった。本科目は必修科目であり、3年次後期からの実習に向けて取得不可欠な科目であるため、致し方ないとする。 学修準備としては、3年次前期は、他の科目でグループワーク等が多く、課題が多い。オリエンテーション時に他の科目との調整を行いながら学習していくことを伝えていたが、約40%がシラバスを参考にしておらず、70%が計画を立てていない。また、ほとんどの学生が授業参加するために1回30分程度以上の準備を0回と回答した学生が39人、授業を振り返るために1回30分程度以上の復習を0回と回答した学生が37人であった。学生の学習していない理由をみると、他の科目の演習課題が多いために「時間がない」という意見が聞かれた。リハビリテーション看護の実技演習は、「大変ためになった」「ストーマの授業が楽しかった」という意見が聞かれた。技術演習は後期からの実習で実践できるような内容を取り入れているため、学生の学びに繋がったと考える。今後の対策として例年、オリエンテーション時に他の科目との調整を行いながら学習していくことを伝えているが今後も続けていきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は104名が履修した。定期試験平均値は、72.8点(SD6.4)点で、最高87点、最低57点であった。再試者2名であった。理想的レベル(80点以上)は、9名であった。そのうち秀はいなかった。 目標別にみると、「知識理解」は80.4%、「思考判断」は53.4%、「関心意欲」は90.6%であった。 「知識理解」や「思考判断」は定期試験で評価を行った。特に、運動器や脳神経のリハビリテーションの看護の理解が難しいようである。牽引時の看護は各自でノートを整理および解説を加えたことで分からなかったという意見は聞かれなかった。 「意欲関心」は日々の学びカードの記載内容および技術演習における態度・実施項目や事後のレポートで評価を行った。技術項目は意図的に項目立てを行うことで、学生が主体的に学習するように工夫を行った。学生は真面目に演習に取り組んでおり、理解に繋がっていたと考える。学生の自由記載欄にも「演習はおもしろくて、とても身になった」という意見がきかれた。到達度自己評価においても、平均値3.8～4.0点であった。図書館などの利用は、63.5%と利用者であった。演習後の課題を提示しているが、一般論に戻りながら学習するような課題提示を考えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」で、看護師国家試験に関連する科目で必修である。定期試験の平均点から考え、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、「思考判断」の達成度が低かった。定期試験において、国家試験レベルの状況設定問題で「思考判断」を評価したが、基本的な理解の不足のために解答できなかった可能性がある。応用する力を付けるために講義の工夫を行っていきたい。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないが、配分の検討を行う。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、すべての項目で「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」で96～99%を占めているが、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」で、4名が「少しそうでないと思う」と回答していた。分かりやすい評価基準の提示を行っていく必要がある。昨年度に比べて、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」については、そうではないと回答する者が減少しており、講義および技術演習でのグループ間の話し合いが持てるようにしている効果と考える。 先述したように、3年次生は多くの演習科目が重なっているため、なるべく課題を減らした構成にしている。技術演習のための課題を課しているが、それにより、図書館やインターネットの利用に繋がっていると考ええる。また、今年度は、豪雨の影響で講義日程の変更を余儀なくされた。技術演習は外部講師の認定看護師等に来ていただいているため、休講になると日程調整が難しく、そのため最終日に技術演習を組むことになった。演習後の学びのレポートについては、課題内容を感想レベルを求めるものに変更して提出を求めたが、一部の学生からテスト前に課題をだされるのは困るという意見が聞かれた。また、授業時間内に授業を終えて欲しいという意見があった。外部講師の演習で10分超過したことが原因と考える。外部講師との調整を行い、時間通りに終わるようにしたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね目標は達成できたと考えますが、昨年度よりも平均点の低下がみられ、個人差が大きく、特に思考判断については今後の課題となった。 演習では、様々な体験を意図的にさせるために、項目立てを行うなど工夫を行ったことで、主体的に学ぶ姿勢がみられた。次年度も学生が主体的に学ぶことができるような計画を取り入れていくとともに時間内に終わるように工夫をしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は既習の専門基礎科目、看護基礎科目、成人・老年看護方法論などの知識を総合的に活用する応用科目である。内容は看護過程演習と関連技術の修得を含み、学生にはシラバスを十分に説明後、スケジュールの確認を行いながら、計画性を持つことを促した。看護過程演習では、毎回、個人が取り組む事前課題をベースにグループで討議し、看護過程の展開が出来るようグループ担当の教員が指導に携わった。また、技術演習では、成人・老年看護学の基礎的な技術修得に向けた演習を組み、エビデンスに基づいた看護援助が行えるよう解説し、確認テストを実施した。評価の自由記載には課題が多いことを述べている。演習後には毎回、教員間で協議し、検討を重ね進めている。課題のあり方や演習指導についても継続的に検討をする。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均点は75.7点であった。再試験者対象者は1名であった。理想とする到達レベル(80点以上)に達した学生は36名(33.3%)おり、概ね教育目標は達成できた。目標別にみると「思考・判断」については、病像シートや教科書類を参考にする必要性への理解が困難であったが、教員が促すことにより情報や知識を活用し、少しずつ論理的に「思考・判断」ができるようになったのではないかと考える。 「関心・意欲」については、グループワークではよりよい記録を作成しようと努力する様子が伺え、真面目に取り組む姿勢が見受けられた。事例に対する質問が、学生から聞かれることもあり、実践への関心の高まりと意欲がわきつつあること、そして看護過程を学び実習に向け、準備性を高めていく必要性が認識できたのではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、成人期、老年期の発達課題と疾病による日常生活の影響とQOLについて看護を学ぶ科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は1名と少なかったが、今回一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識・理解」82%「関心・意欲」「態度」「技能表現」は90%を超えており、「思考・判断」69.1%であった。本科目の主要な要素である看護過程の事例展開は、模擬患者の健康状況から看護診断を行い、看護計画の立案・実施・評価を行う演習である。全体像を把握しながら実践の基盤となる指標、「思考・判断」を深められるよう演習を行っている。「思考・判断」の評価は昨年度より改善向上しているものの、到達レベルが69.1%であった。高い水準を期待したい。全体的には、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、96%以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.9から4.2であった。また「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「専門分野で必要となる技術を身につけた」「専門分野で学びを深めたいという意欲を持つことが出来た」などの評価点は高く、グループワークの成果であると考えられる。 看護過程演習は、1グループ5～6名で20グループで構成し、2～3名の教員が、4グループを担当し指導を行った。授業開講前に教員間の指導の統一を図るため、事例検討を行い、グループ間においても共通認識ができるよう準備を行った。学生の自由記載に、「技術試験(老年)の評価が違う。」という意見があった。これは初回、約半数の学生が不合格となり、学生の不満という形で表出した言葉と捉え、教員の期待する評価の視点を再度説明した。学生は納得し、再度チャレンジすることで全員合格することができた。今後も学生の準備性を高め、教員間の情報交換を十分に行い、全体の調整を行いながら進める必要がある。 今年度は急性期の事例の看護過程を中心に進め、慢性期の事例を応用とした。学生が理解し易い順序ではあったが、限られた時間の中で、慢性期に移行する時の準備学習について解説を加え、学生の自主学習を強めること、そして個人学習とグループ学習の効果を見極め運営することも検討を要する。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践・応用」に位置付けられ、行動目標については概ね達成できたと考える。また、授業の質評価において、すべての項目が昨年度より向上していた。現在個別指導による対応を行っているが108名の学生の個人差が大きく、「思考・判断」の69.1%については検討の余地を残した。また、例年課題が多いという意見が聞かれ、負担軽減を図るための検討を行っている。しかし、3年次後期からはじまる実習に実際に応用していく科目であり、成人・老年という看護師国家試験に関連する重要な科目であることを伝え、取り組んでいきたい。また、教員間の共通認識と周知および課題の多さに関しては同時開講中の他の科目との調整を今年度と同様に進めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	109

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かかわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業が展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。 ②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。また、作年度に引き続きストレンクス理論を取り入れ、さらにオープンダイアログで患者とのかかわりを重視した演習内容に構成した。 ③ストレンクス理論とオープンダイアログを新たに取り入れ、軽微な記録用紙の改善を行った。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。 配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。 今年度も昨年度に引き続き実習病院の指導者に演習の一部に参加していただき、学生に精神疾患を持つ人のイメージがしやすいように助言してもらった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.6(±9.6)点であり、再試対象は5名であった。88名(78.0%)が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは39名(35.8)%であり、半数以上がこのレベルに達するとよいと思われる。成績の内訳は、A(秀)3.7%、B(優)が32.1%、C(良)が42.2%、D(可)が17.4%であった。 精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。また、問題解決思考にとらわれない考え方は他の身体領域とは違うため戸惑うことも多かったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。 学習到達度の自己評価の平均は3.75であり、「かなりそうだと思う」が16%、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」が80%を占めていた。授業への準備状況として、予習の時間0回が20%、復習の時間0回が30%となっているが、毎時間、予習・復習に相当する課題を出していたので、課題以外の学習する時間がなかったということなのであろう。提出率はほぼ100%であったので、授業時間以外の学習はできていたと思われる。図書館の利用率は88%という結果であり、昨年度の58%から大幅に増加しよい傾向である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度がやや低かったが、提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで主に進めたことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均は3.82であり、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が34%、「まあそうだと思う」が39%を占めていた。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開しているが、疾患の理解が難しいため事例の工夫等を重ね、さらにわかりやすい解説をしていきたい。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点は、4.0で項目の中で最も高い評価であった。グループワーク中心の演習で、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションもできたので参加型の授業ができた。 例年、学生の意見として、他の教科の課題に追われていたという意見があるが、臨地実習前の学期であるため、学習量が多くなるのは致し方ない。学生が計画的に学習に取り組めるように、課題の全体像が見えるように前もって提示した。実習病院の指導者さんに一部演習に参加していただいたことは、精神疾患を持つ患者の状況がイメージしやすいと好評であった。前年度、講義を取り入れてほしいという意見があったので、患者のかかわりについて日頃の看護を発表していただいた。学生は、今、学んでいることが実際に役立てられていることに刺激を受けていた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかななくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。課題の提出率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われる。学生の意見としては、授業と課題提出までの期間が短く、質問のタイミングがつかめないという意見があった。授業の曜日と添削の時間を考えて提出日を検討したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学	3	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①救急・クリティカルケア看護学は、2年生後期に履修する成人急性期看護方法論の延長線上にあり、特に生命の危機的状況にある患者・家族に対する看護を探究する科目である。また、3年生後期から開始される、各論実習(成人急性期看護学実習-ICU見学実習)に繋がる科目となっている。近年の臨床現場は、救急・クリティカルケア看護を必要としている状況が増加していることから、その状況が想起できるような授業展開を工夫し、講義の終盤では、救急・クリティカルケアの実践が行われるICUについて、集中ケアの認定看護師の講義を2コマ入れた結果、学生の興味関心を高めることができた。 ②昨年まで、学生の受講動機では、「必修科目である」ことが100%であったが、今年は「資格取得に必要である」「関心のある内容である」と解答する学生が存在し、14.4%の学生が興味関心を持ち受講していたことがわかった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.8点(SD8.3)であり、最高点96点、最低点58点であった。再試対象は、4名であった。昨年より平均点はあがったものの、再試対象者が昨年の0名から4名に増え、点数の開きがあることは残念である。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは55名であった。 目標別にみると、知識理解に関しては87.5%、思考判断については72.6%、意欲関心については84.8%、全体的に講義に対して、真面目に取り組む姿勢がみられ、目標達成に反映された。 受講生の103名全員が国家試験を受験する学生であることを考えると、看護形態機能学や疾病学総論・各論との関連性の強化と救急・クリティカルケア看護を想起できるように画像や実物を可能な限り提示し、視覚によるイメージ化を図りたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」87.5%、「思考判断」は72.6%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。「思考判断」をやや達成させることに繋がっていることから、内容的には妥当であったと考える。今後も、事例の数・状況などを工夫して解説していきたい。 救急・クリティカルケア看護領域の主要病態に対するアセスメント・処置・ケアの方法など、最終試験にて思考判断を問っている。平均点の79.8点から考えて、内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、8割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.8～3.9であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。 次年度に向けては、救急・クリティカルケア看護において重要な「思考判断」をさらに強化できるよう、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会をより多くするとともに、復習できるような課題の工夫に取り組みたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えますが、個人差が大きく、特に思考判断については課題を残した。授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会をより多くするよう工夫したいと考える。 昨年から、救急・クリティカルケア看護における倫理的場面を提示し、グループワークを取り入れ、看護者が求められる倫理性について学びを深めることができていた。次年度も同様に、倫理性についての学びが深められる内容としていきたい。 看護師国家試験に関連する必修科目であることを自覚し、受講動機を「資格取得に必要であること」「関心のある内容である」とする学生が増えてきていることは喜びである。来年度はさらに学生の認識・興味関心が高まるように検討したいと考える。また、救急・クリティカルケア看護学は4年次の救急・クリティカルケア看護学演習の基盤になるため、演習への興味関心が高まるような授業展開を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
緩和・終末期看護学	3	前期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目として看護実践の展開・応用にあたる科目であり、既修のすべての科目を基盤にしている。あらゆる発達段階の人々を対象に、がん・緩和・終末期看護という知識・思考を新たに学ぶ科目である。がん看護においては、3年次後期からの実習に直接的に活用できる知識であり、臨床での事例や最新の治療、具体的な看護方法などを組み込みながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解を目指してわかりやすい解説を意識した。また、理解の促進および関心を高めるために、講義終了時に質問や感想を自由に記述してもらい、次回の講義時、回答するように関わった。本年度は小児の緩和ケアについても専門性を踏まえ具体的に解説した。緩和・終末期看護において「死」は誰にでも訪れる身近なものであることを解説し、人生観や死生観が深まるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均点は75.5点、最高89点、理想的レベル(80点以上)が29名(27.6%)であった。昨年度の平均点より3点低く、理想的レベルは約23ポイント減少した。しかし再試験受験者はなく全員標準レベルに到達出来た。目標別到達点は「知識・理解」82.2% 「思考・判断」66.6% 「関心・意欲」は80%であった。「思考・判断」の達成度が低く、事象をどのように捉え、問題解決を図ればよいのか等、知識の応用については十分な理解には至っていない。到達度自己評価では各項目が98%程度の肯定的な評価であった。科目の性質上、技術演習を取り入れることは困難だが、意見交換や事例検討などの場を設け、表現力や思考を深める工夫が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という学生は3名と少なかったものの、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目の行動目標として①がん治療における看護援助②終末期にある患者とその家族の特徴③緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助④緩和・終末期医療におけるチーム医療の在り方⑤死をめぐる倫理的課題⑥小児の緩和・終末期医療と看護をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。最も重点を課している「知識・理解」の達成度が82.2%であり、目標は概ね達成されており妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による自己評価到達度や、授業の質評価は昨年を上回っている。しかし、学びを深めたいという意欲や実践に求められる「思考・判断力」を培うためには授業の工夫が必要と言える。また学習量においては43%が予習・復習を行っていない状況にある。昨年より3ポイント改善しているが、主体的学習に向けた課題についても、今後の検討を要する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は専門教育科目の応用・展開科目として位置づけられている。目標は一定の達成度を得たが、「思考・判断」においては課題を残している。学生の思考を活性化させるような教育上の工夫、また、外部講師の効果的な起用については、学生の準備状況を把握したうえ検討する必要がある。学生・教員間での意見交換ができる機会（ディスカッション、発表、質問など）をさらに組み込むことや、予習・復習の課題、学生の関心を高めることにつながるようなテーマ選択について検討する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、99%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、極端に少なく、「関心のある内容である」のはわずか1%であった。このことは、例年通りであることから、最初の講義で神経難病の気管カニューレ交換と療養者のメッセージのDVDを見てもらった。DVDによって病院の看護と違うことをイメージすることができる。そのため、次年度も科目に関心をもってもらうための仕掛けをしていこうと思っている。 在宅看護学では、以下の目標をあげている。 1. 医療・看護をとり巻く社会情勢から在宅看護が必要とされる背景を知り、在宅看護にかかわる施策・制度を説明できる。 2. 継続看護について説明できる。 3. 在宅看護に活用できる家族理論の概要を述べることができる。 4. 在宅療養に対して安全・安楽な看護および自立を支援する看護の役割について説明できる。 5. 看護専門職として、療養者の居宅に1人で訪問する責任を考え、自分の言葉で述べるができる。 6. 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 7. 保健・医療・福祉サービスを整理し、療養者と家族を支えるために多職種・多機関と連携する必要性を理解する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点68.5点(昨年72点)であり、再試験対象は16名であった。成績の内訳は、秀 4名(昨年3名)、優 13名(昨年14名)、良33名(昨年 32名)、可 57名(昨年42名)、不可(再試験未受験) 1名(昨年0名)であった。 昨年に比べ「可」の学生数が多く、平均点が低かった。テストでは記憶で回答できる問題と、事例から考えて回答する問題があるが、両者とも正答に差が見られた。授業内で実施した同じ問題でも回答できない学生が多く、自主的に復習することのむずかしさを感じた。この科目だけでは難しいが、事例に合わせて臨機応変に思考できるよう工夫をしていきたい。 しかし、授業評価の到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が3.7(昨年3.2)、「学びを深めたい意欲を持つことができた」が3.7(昨年3.0)と、学科平均よりも低いものの上昇することができている。これらの数値が、主体的な学びに反映しているとも考えられるため、意欲を高める工夫をしていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」に位置する。そのため、在宅看護学の対象が小児から高齢者とすべてのライフステージである。疾患も多岐にわたっていて、長期の療養をしている人、障害を残している人、ターミナルの人と幅広い。15回の講義で対象の特徴と在宅療養の特徴、地域ケアシステムの解説をしていかなければならない。理解を得やすい順序や構成にしているが、1週間空くと前の時間の内容を忘れていた学生もあることから、どうやって他の科目と統合するか、どうやって15回の展開を連動するか、工夫の必要性を感じている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目はDP1:知識・理解、DP2:思考・判断、DP3:意欲・関心を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。しかし、学生の特徴として、科目単元ごとの知識で完結し、忘れてしまっていることが多い。授業の中で復習しながら授業しなければ理解できないが、それをしていると在宅看護学の解説時間が足りなくなる。30分以上の予習を0～1回という学生が4割おり、その理由が「他の課題をしていた」とある。この時期は、各看護学演習で学習成果を提出する期限が決められており、それを優先すると自主的な予習が出来ないまま授業に臨むことになる。既習の知識を使う統合科目であることを理解してもらうように、これからも繰り返し説明していきたい。 しかし、「図書館の図書や雑誌を利用した」「学術データベースを使った」学生がともに8割おり、専門書や最新のデータをみて学習スタイルで臨んでくれたのは、さすがに3年生だと感心した。どの授業内容がこれらにつながったのか、検証していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「看護実践の統合」に位置する。つまり、各看護学の知識を使って「統合」する科目であることを繰り返し説明し、既習の知識を想起して臨んでもらうように繰り返し説明したい。また、在宅看護学はすべて明確な答えがあるわけでない。「～かもしれない」と複数の答を予想し、諸状況によって様々な対応が求められる場合が多い。学生は、明確な回答がないと不安に思ったり、多くの場合は答えがないことを考えたくないようである。答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、考えることを繰り返し説明したい。また、シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。 2人の教員で授業を進めることから、評価に差があるように受け止めた学生がいた。教員は、担当単元については評価基準を作成しており、単元を担当した教員が学生全員分の評価をしているため、評価に差がでることはないことを理解してほしい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3	前期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、100%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は極端に少なく、「関心のある内容である」のは2%であった。本科目は看護学科の必修科目であり、学生の選択の余地なく受けざるを得ない。関心ある学生が少ない状況での授業開始であることを念頭に授業の導入をしていくことで、仕方なく受けるにしても、興味をもって臨んでもらうようにしたい。 在宅看護学演習の目的は以下のとおりである。 1. 在宅療養者とその家族（事例）の安全・安楽を考慮し、自立を支援する看護計画が作成できる。 2. 居宅の環境と条件に合わせた臨機応変の看護技術を考えることができる。 3. 地域ケアシステムを考慮し在宅療養者と家族（事例）を支えるケアプランを検討できる。 4. 演習事例から、地域包括ケアシステムの構築に看護が果たす役割を考えることができる。 5. ケアプランを実行するために、多職種多機関との連携の方法を考え、協働する態度を身につける。 6. 在宅療養者の自宅に訪問する看護師が信頼関係を樹立するために必要なマナーとコミュニケーション技術について考え、実践の準備ができる。 在宅看護学・在宅看護学演習は同時進行であるため、3つのねらいを設定した。そのことについて、最初の在宅看護学の授業でシラバスを提示し、在宅看護学と在
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、レポート・ケアプラン・看護過程等の提出物が50%、期末テスト50%で実施した。最終的な成績は、平均点70.7点（昨年71.7点）であった。成績の内訳は、秀1名（昨年1人）、優 10名（昨年11名）、良 49名（昨年39名）、可45名（昨年39名）、不可（再試験未受験含む）2名（昨年2名）であった。今年は、ペーパーテストの得点に差が大きかった。また、テストの点数が低い学生は、おおむねレポートに自分なりの提言や独創性が足りず点も低い傾向にあった。図書館を利用したが9割あり、学術データベースを利用した学生も8割あったことは評価に値するが、自分の意見をもつことを意識して指導していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」に位置し、DP2:思考・判断、DP3:意欲・関心、DP4:態度、DP5:技能・表現を目標にしている。最初に、在宅看護学に必要な既習の知識をまとめるためディベートを実施した。目的を説明して取り組んだものの、自由記載では「なぜディベートをするのか」という意見があった。授業の進行途中でも、ディベートで得た知識を活用するプログラムを工夫していきたい。 ケアプラン・看護過程では、各自が展開できる力をつけるため、グループワークを取り入れながら、課題の提出は個人個人でするようにした。また、ルーブリック評価表でチェックし、必要箇所はコメントを入れて返却した。「授業内に終わらない」という意見があったが、大学の講義は予習＋講義＋復習の時間をもって理解するものであるから、その点を理解してほしい。 地域ケアシステムの演習グループワークは、課題はグループごとの提出だった。良くまとめられているグループの提出物にコメントをいれて、次の講義で全体に配布して説明した。しかし、法律・制度の根拠についての知識・理解が充分できないまま時間が流れてしまい、個人個人の力を身につけることができなかったようである。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義前半はレポート、後半でケアプラン・看護過程の提出を要求した。これは3年前期は看護学各論ごとに看護過程を展開するため、同時進行している他の演習科目の進行や課題を配慮したものだが、自由記載では課題の量と時期についての意見もあった。実習に向うこの学期は、授業数が少ない分、科目の質が高く要求され、これまでに比べて課題の量は多くなる。教員同士で同時進行の課題を考慮しているので、後期の実習に向ってこの関門をクリアしてほしい。 看護過程では「詳しく解説してほしい」というコメントがあった。既習の知識を使ったものであり、そこから説明しているとディスカッションの時間確保が難しい。そのため、講義中は教員と助教でラウンドしながら個々の質問に応じる体制をとっていた。質問が出ない場合は、個々の進捗を見ながら教科書や学生が持参した参考書等で解説していたが、不足に感じた学生もあったことがわかった。解説の方法を善処したい。また、「手書きはきつい」という意見が3人からあった。これは、授業にパソコンを持ってくるようにしていないため、解説しながら進めると手書きすることとなる。また、看護過程はコピー＆ペーストするものではないので、手書きが基本であると考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ディベートによる介護の社会問題をとらえたことは、時期、手法とも適切であり、同時開講している在宅看護学の理解につながった。しかし、地域ケアシステムについては、在宅看護学での知識を使い演習事例で考える内容であったが、グループワークのみで展開したため、理解できた学生の割合が少なかった。地域ケアシステムの活用は在宅看護特有の視点であるため、全員が理解できるような手法を考えたい。このことよって、DP4-2)の達成率をあげていきたい。 主体的な受講動機が低い科目であることを自覚し、科目のねらいを具体的に示していきたい。授業外での課題については、今後も他の科目の情報を得ながら考慮するが、なくすことは難しいため、学生の理解を得たい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護マネジメント論	4	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門教育科目に位置づけられている選択科目である。学生は4年次の開講時期には看護職への移行期として、就職活動も行っている。看護実践の統合として位置づけられているため、マネジメントの実際について幅広く、また実践者として管理的視点について教授した。具体的には2年次の必修科目である看護基礎マネジメントの内容を深め、医療を取り巻く社会環境の変化を最近の動向から解説し、看護政策と看護の将来ビジョンについても教授した。受講生が18名であり、学生とのコミュニケーションを図り、質問に答えながら講義を進めた。「管理」は特別なものではなく、卒業後には臨床において社会人として働くことを意識し看護とマネジメントについて具体的に教授した。また、看護総合実習で『看護管理』を選択している学生がおり、個人のテーマを吸い上げながら医療におけるマネジメントの視点を個別事例を踏まえて解説した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は85.9点であった。最高点93点、最低点66点で再試験者はいない。理想とするレベルの学生は13名(65%)いた。目標別にみると到達度は「知識・理解」が64%、「関心・意欲・態度」は97.5%であった。これまで、受け持ち事例の看護過程の展開を中心に学んできた学生は、看護倫理や行動規範について、理解が一層深まっている。授業に関わる学習では、学術データベース等の文献活用者が1名おり、課題を持って臨んでいた。全体としては組織的看護サービスの提供に対する理解は十分とは言えず、事前学習を含め検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の統合にあたる科目で、看護の特徴と現代医療現場における看護管理上の課題を理解し、看護管理者の役割について学び、新人看護師にも看護管理の実践が求められていることなど看護マネジメントの視点を学ぶための科目となっている。選択科目であるため、18人の受講であったが「関心を持って選択した」という回答は2名、「教員にすすめられて」という学生は7名いた。今回、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識・理解」は65%、「関心・意欲」「態度」95%であった。本科目の主要な要素である看護マネジメントは、医療環境の変化と看護管理上の課題をマクロの視点とミクロの視点から明確化し、看護管理者として求められる役割について理解し、医療の質と看護の質評価についても理解できることを意図している。「知識・理解」の到達度が64%であることは、学生の立ち位置と組織的看護サービスの関連性が描きにくい状況だと判断する。もう少し高い水準を期待したい。全体的には、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本年度は受講生が18名であり、昨年の4名と比較し大幅に増加した。受講動機は「単位数確保」が43.8%、「教員の勤め」が43.8%であったが、「関心のある内容」と答えた学生が12.5%いた。受講者の到達度自己評価では平均値が約3.6であった。、コミュニケーション力や表現力を高めることが出来たという項目は3.4と、昨年に比べ低下している。これは受講生が多くなり、グループ討議の時間を削減したことが考えられる。広く医療に関する情報や知識を持つことは出来たが、マネジメントにおける課題を発見し検討する力は、演習等の時間を組み入れることにより強化していきたい。またテーマを事前に与え、事前学習を得た上で、授業に参加できるよう工夫を重ねていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生は看護マネジメントの考え方は理解できたが、これまでの学習から組織的看護サービスについては実践に乏しいため、看護管理の視点を2年次の基礎マネジメントでイメージ化を図り、4年次の講義において視野を拡げ、看護管理者の役割について理解が出来るよう組み立てを工夫し、強化したい。また、4年生前期の選択科目であり、看護実践の統合という観点から、日常ケアの中で実践できるマネジメントと、組織的看護サービスマネジメントの視点において看護管理の重要性と求められている能力についても重要性を伝え、「より深い関心をもって選択する」学生が増えるよう、方向性を持ち2年次の基礎の段階から呼びかけたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究の基礎	3	前期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、看護職として看護の実践・教育・管理など、看護の質の向上のために研究を行うことが求められており、その基礎となる科目である。受講動機をみると「必修科目である」100%、次いで「資格取得に必要である」8.9%、「関心のある内容である」1.0%と少ない状況である。看護師になぜ看護研究が必要であるのかを伝えていく必要があると考える。 ②本科目は15回30時間の科目で、2コマ続きの8回で講義・演習を行っている。5名の教員が3～4グループを担当し、講義もオムニバス形式で行った。また、一方的な講義スタイルではなく、自分たちでテキストをまとめ学習することを導入した。学生は他の科目課題が多いため、時間内にテキストをまとめる時間をとった。 ③本科目は、4年次での看護総合演習において、文献検索や事例研究などを行う基礎となる科目である。そのため、これまでの、教員が配布資料をもとに講義を行ったが、本年度よりテキストを導入して、4年次、さらには卒業後にも活用できるようにテキストの選定を行った。 ④テキストを購入してもほとんど読むことなく、4年次に国家試験の学習をする際にテキストを開ける学生が多いのが現状である。そこで、学生が自らテキストを活用するように、調べ学習の課題を設けたことで、テキストを十分読んだ学生が多かったと考える。 ⑤文献検索については、1年次の基礎学習ゼミで学んだ「図書検索」を持参させ、他科目との学びの共有を行うことで、既習の知識を用いることの必要性に繋がったと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、69.5点であり、再試者7名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上)は、5名と少なかった。 目標別に見ると、知識理解が61.8%、思考判断76.7%、意欲関心73.5%、態度70.0%で、知識理解が低かった。定期試験でも基本的な研究計画の構成を述べることでできない学生がみられた。学生の感想にも難しいという意見が聞かれた。自分たちで課題をみいだすことが求められる科目であるため、致し方ないと思うが、看護研究の意義と基本的な構成は理解して欲しいと思う。 学生による授業評価においては、到達度自己評価の平均値は3.6～3.8であった。「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」が9割を占めていた。学習量の評価では、1回30分程度以上の準備および復習で0回と回答した学生がそれぞれ15人、20人であり、1回がそれぞれ14人、24人であった。今回はグループワークであったが、参加していない学生もあり、一部の学生に負担がかかっていた可能性も考えられる。 本科目は、自分たちで研究計画書を作成することを目標としていた。そのため、文献検索を行い、文献カードの整理を行うことを課題としていたが、図書館などを利用したものが、8割以上であった。しかし、「利用しなかった」と回答した学生がいたのは理由は不明である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」で「看護実践の統合」に位置づけられており、必修科目である。3年次前期開講であるため、ほとんどの看護に必要な科目は履修済みである。そのため、看護に対しての疑問や課題を探究するために必要な科目はおさえられていると考えられる。平均点から考え、概ね内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識理解が他のDPに比べて低い結果であった。グループワーク点が良い学生は定期試験でも好成績を修めていたことから、個人差が定期試験の知識理解で現れたのではないかと考える。真面目にグループワークに参加すれば成績にも反映されており、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均3.4～3.8点であり、「説明は理解しやすいものだった」が3.4点であった。学生の自由記載にも難しかったという感想が聞かれた。本科目は、研究の基礎を学ぶ科目であるため、すべて理解することは難しいと考えられる。今の時点では看護研究の必要性や意義、計画書の構成が分かり、次回、機会があった際には、今回のテキストに戻り学習ができれば良いと考える。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」でかなりそうだと思う24名、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」でかなりそうだと思うと23人が回答しており、平均値も3.8点であった。グループワークを導入と担当制の効果と考える。 学生の意見に、ポートフォリオ作成時のインデックスの表示が遅いという指摘があった。次年度は先に説明を加えたいと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、「専門教育科目」で「看護実践の統合」に位置づけられており、必修科目である。 この科目は、4年次の看護総合演習や卒業後に必要な科目である。そのため、必要な時にテキストに戻りながら学習するために、グループワークや個人でテキストをまとめる課題提示などを行った。学生の意見にあるように時間をかけて作成したかったという意見が聞かれた。1回2コマで8回の科目である。他科目との関連もあるが、時間配分を考えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ウイメンズヘルス看護論	3	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が興味を持っているテーマを事前に提出させ、担当教員決定した。目標達成等から見ると本年の方法はよかった。指示年度も本年の方法を継続する。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	教員評価平均点81.7点であった。学生は積極的に学習しており、学生の到達度の項目別の自己評価は3.8～4.3であった。学生は図書館・学術データベースの利用・インターネットの利用を積極的に利用し、85%の学生が利用したと回答している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的に妥当である。学生の到達度の項目別の自己評価は3.8～4.3であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質の評価」の項目別平均点は4.2～4.3であり、「図書館・学術データベースの利用・インターネット」を積極的に利用し、85%の学生が利用したと回答しており、積極的に学習に取り組んで学習効果があげられた。教員は担当の学生に対してマンツーマンで指導するため、負担が大きい。選択科目で受講生が27名であったため、手厚く指導ができたが、次年度受講生が多くなるようであれば、指導方法の変更も考慮する必要がある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生は積極的に課題に取り組み、達成できたと評価する。課題として教員は担当の学生に対してマンツーマンで指導するため、負担が大きい。選択科目で受講生が27名であったため、手厚く指導ができたが、次年度受講生が多くなるようであれば、指導方法の変更も考慮する必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	檜原 真二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地方自治論	3	前期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「地方自治論」は必修科目ですが、看護学科の学生にとっては専門科目とは内容に隔たりがあるため、なるべく理解しやすいように、また、少しでも興味をもてるように説明することを毎年心掛けています。しかし、集中講義でもあり、開講時の学習準備なども極めて困難な状況と言えます。以上のような点から、①講義のはじめに板書することによってこれから話をする内容のポイントは何かを明確にするようにしました。②レジュメや配布資料を用いて説明するようにしました。③イメージしにくい内容の場合はDVDなどの映像によっての理解促進を図りました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中の学生の反応や授業終了後の質問、コメント用紙に記述されている内容、また今年度は自由記述がほとんどなかったため十分に把握できているとは言えない点もありますが、到達度自己評価のところでは8割くらいの受講生が「わりにそう思う」、「かなりそう思う」と回答しているので、教育目標は達成されたと考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	子どもの貧困の問題や北九州市の超高齢化などの問題は、看護学科の学生、特に保健師を目指している学生とっても学ぶことは必要かつ重要であるといえ、内容的にも妥当であったと考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	看護学科の学生にとって、専門とは大きく異なる領域であったため、昨年同様に、授業のはじめに板書をして授業全体の流れを示したり、DVD等の映像を用いたり、さらにはディスカッションの時間を取り入れたりしたことはよかったのではないかと思います。本講義では、地方自治論(特論)の専門的内容などを教えるというよりも、授業内容を通して考える力を養うことに時間を割くようにしました。この点は昨年さらには一昨年来から課題とした点ですが、おおよそまぐいったのではないかと思います。今年度は「勉強の仕方がわからなかった」「何をすべきかわからなかった」という意見もなく、授業内容やその進め方についても改善できたと考えています。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	看護学科の学生にとっては専門科目とはかなりの隔たりがあり、また集中講義でもあるということを考えると、ある程度、講義の目的等は達成できたのではないかと 思っています。今年度は、すでに触れたように勉強の仕方がわからなかったというような指摘もなく、昨年度課した改善点も達成されたのではないかと考えていま す。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健師課程必修科目である。受講動機をみると、前年度では「必修科目である」75.6%が最も高かったが、今年度は23.5%に減少し、「資格取得に必要である」94.1%（前年度52.9%）が最も高くなった。今年度から保健師選抜時期が2年生後期（前年度までは2年生前期）に変更されており、選抜直後に開講される科目であることから、「資格取得」を意識した受講者が増えたと考えられる。「関心のある内容である」5.9%で前年度と同様であった。資格取得には必要であるが、教科目への関心は高いとはいえない状況である。参加型授業によるフィールドワークを取り入れて授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点(前年度80点)と昨年度と同レベルであり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは12名(66.7%)と、ほぼ達成された。 目標別に見ると、知識理解及び思考判断は81.6%(前年度77.7%)、課題発表を通しての態度100%(前年度95.6%)であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであったが、到達度は82%だった。また、アクティブラーニングによる地域フィールドワーク発表81%、質問・レポート83%であった。 図書館等の利用については、83%の学生が利活用したと回答し、前年度50%より改善した。また、学習量では、前年度は「30分以上の準備」0回と回答した者が33%いたが、今年度は1名(5%)と改善した。また、「4、5回」「6回」と回答した者の割合が9名(50%)と前年度の1名(5%)より増加した。自由記載欄には、「課題が多くて大変だったけど、その度ふりかえりで知識が定着できたと思う」との記載がみられた。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由としても「課題が多かったため」と記載があり、課題についての受けとめ方は多様である。しかし、最終的な成績及び到達状況をみると、授業課題を通して理解が深まると考えられるため、今後も課題は継続する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 受講動機で最も多い「必修科目」「資格取得に必要な科目」にもある通り、本科目は「専門応用科目」のなかでも、「公衆衛生看護関連科目」に位置づけられており、保健師課程の必修である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 保健師国家試験科目であり、学生の授業に臨む姿勢は真摯である。授業の質評価について④わりにそう思う⑤かなりそう思う の評価割合が前年度より改善した項目は「自分なりの目標を達成した」3.9(前年度3.8)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」3.9(前年度3.8)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」3.9(前年度3.8)、自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」3.9(前年度3.8)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」3.9(前年度3.8)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」3.9(前年度3.8)、職業倫理や行動規範をについて学ぶことができた」3.9(前年度3.8)であり、殆どの項目で改善した。 学生の知識、判断、技術、意欲の面から自己評価は改善しており、また客観的評価である成績も一定の成果を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」平均値4.1(前年度4.0)で最も高く、「説明は理解しやすいものだった」3.8(前年度3.8)で最も低かった。説明については、自由記載の欄に「毎回わかりやすい説明で具体例もあって理解しやすかったです。」とあったが、全体的にみると③「まあまあそうである」が7名(38%)を占めており、授業の説明力を改善する必要があると考えられる。次年度は、毎回の授業後に分かりにくかった点などをアンケートとして意見聴取し、次回にフィードバックすることを取り入れる。 図書館等の利用については、83%の学生が利活用したと回答し、前年度50%より改善した。また、学習量では、前年度は「30分以上の準備」0回と回答した者が33%いたが、今年度は1名(5%)と改善した。また、「4、5回」「6回」と回答した者の割合が9名(50%)と前年度の1名(5%)より増加した。自由記載欄には、「課題が多くて大変だったけど、その度ふりかえりで知識が定着できたと思う」との記載がみられた。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由としても「課題が多かったため」と記載があり、課題についての受けとめ方は多様である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	保健師課程に位置づけられる科目であり、看護師課程の基礎的知識を土台に、公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目である。 DPの到達状況は全員が達成した。また、学生の到達度自己評価では、知識・判断力・技術・意欲の面から前年度よりも改善していた。授業の進め方に関して、殆どの評価項目で授業の質評価は前年度より改善していた。最も低かった「わかりやすい説明」については、次年度の改善点として、毎回の授業後に分かりにくかった点などをアンケートとして意見聴取し、次回にフィードバックすることを取り入れる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術演習	4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」に必要な看護技術を修得する演習科目である。受講動機をみると、「資格取得に必要である」71.4%、「必修科目である」57.1%だった。保健師資格取得を目指す学生にとって、必修科目であること以上に、資格取得のための科目として動機づけされていると考えられる。これまでの学生評価をふまえ、演習した技術の振り返りに十分な時間を確保できるようコマ数の配分を計画し、学生が演習時間内で習得できる判断力や技術を客観的に振り返るとともに、今後さらに知識・技術を明確化できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は81点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)目標は達成された。 目標別に見ると、思考判断の達成は77.1%、関心意欲では98.8%、技能表現では79.8%、態度では97.4%であった。 思考判断では、①家庭訪問の事例について、対象特性に応じた看護援助の必要性を判断し、適切な援助方法を選択するもの、②実習施設の地域診断をふまえ、住民への健康教育ニーズの判断とテーマの設定、教育の方法を選択するもの、と2つの演習項目を評価した。特に、科学的根拠に基づいて公衆衛生看護技術をどのように適用するかを判断する力を問うている。また、技能表現では、対象者と関係を形成しながら、家族を対象とした家庭訪問技術及び集団を対象とした健康教育技術を提供できることを到達とした。学生の達成度評価からは、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.3(前年度+0.3ポイント)と最も高かった。これは、<3. 授業準備について>の述べたように、演習実施後に振り返りの時間を確保したことの効果であると考えられる。「コミュニケーション力や表現力を身につけることができた」平均値4.3(前年度4.2)、「職業選択の参考になった」平均値4.3(前年度4.1)も改善した。最も低かった項目は、「自分なりの目標を達成した」4.0(前年度3.9)であったが、前年より改善していた。図書館の利用状況に関して、9割以上が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。2年生後期の「公衆衛生看護技術論」修得した知識をベースに、事例について家庭訪問及び健康教育を展開する演習科目である。開講時期が4年生前期であり、看護師課程の各領域看護学実習を終了した時期である。そのため、個人・家族から、集団・地域と対象理解を広げて看護を展開するには適切な時期であり、また内容的にも妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機では、保健師課程の必修科目であること以外で、資格取得に必要であることや、関心のある科目に回答する者が前年度より増加した。学生の達成度評価からは、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.3(前年度+0.3ポイント)と最も高かった。これは、<3. 授業準備について>の述べたように、演習実施後に振り返りの時間を確保したことの効果であると考えられる。「コミュニケーション力や表現力を身につけることができた」平均値4.3(前年度4.2)、「職業選択の参考になった」平均値4.3(前年度4.1)も改善した。以上より、内容的に妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では「期間中に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.3(前年度4.1)、「説明は理解しやすいものだった」4.3(前年度4.1)、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が与えられていた」平均値4.3(前年度4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」4.3(前年度4.3)で最も高く、残り1項目「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」4.2(前年度4.1)であった。全項目とも4.2以上となり前年度より改善した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生は全てのDPを達成した。授業外の課題学習でも図書館を有効に活用し、科学的根拠に基づいて家庭訪問や健康教育を実施することの重要性を認識したようだ。また、技術の習得に向けても熱心に練習を行っており、その努力への肯定的なフィードバックと、具体的なアドバイスが必要であると感じた。ほぼ、全評価項目で得点が増加したことから、授業の工夫を継続する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論演習	4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」の実習施設地域を対象に、地域診断の技術を習得する演習科目である。政府統計e-statを主なデータベースとして、実習地域の人口統計・健康指標データ等を収集し、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう準備した。受講動機をみると、「資格取得に必要である」75.0%（前年度75.0%）で、資格取得科目であることの動機がもっと高かった。次いで「必修科目である」56.3%（前年度81.3%）、「関心のある内容である」6.3%（前年度0%）であった。関心のある内容については前年度より改善した。膨大なデータから、学生が必要に応じて情報収集を行っていけるよう、各グループの進捗状況に合わせて指導を行うよう心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76点であり、再試対象は1名であった。昨年度の平均点を下回った要因として、1つは理想レベルに到達した学生数の減少が考えられる。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは5名と前年度よりも3名減少した。また、1つは前年度は再試対象者0名だったが、今年度1名が該当し、その得点が17名の平均点に影響したと考えられる。ルーブリック評価では、＜思考判断＞に関する問題は65.4%（前年度75.3%）で、前年度よりも低下した。学生の準備性として、健康指標の基本的な知識の習得が不十分であること、そのために、演習内容（地域診断）に入る前に、健康指標の再確認に時間を要した様子だった。また、今年度はエクセルの使い方に関してリテラシーの習得が不十分な状況もみられたため、データ分析に進むまでに時間を要する状況であった。それらの状況は、学生の到達度自己評価にも表れていた。前年度と比較して低下した項目をみると、「自分なりの目標を達成した」平均3.6（前年度3.7）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.0（前年度4.1）、の2項目であった。 前年度、「職業倫理や行動規範」平均値3.5で最も低かったため、今年度は、地域情報の取り扱いなど、住民データの情報管理について説明を補足するよう心掛けた。その結果、「職業倫理や行動規範」3.8と0.3ポイントの改善が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のみの受講である。前年度より改善した項目をみると、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.2（前年度4.1）、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」4.0（前年度3.8）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」3.9（前年度3.8）、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.0（前年度3.8）、「自分が学ぼうとしている専門分野で技術を身に付けることができた」3.9（前年度3.7）、「コミュニケーション力や表現力を身に付けることができた」3.8（前年度3.7）、「職業選択の参考になった」4.0（前年度3.7）であった。また、学生は全員標準レベルに到達していることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価では思考判断に関する達成度は前年度より若干低下していた。内容的妥当性には問題はないと思われるが、全員が到達し理想レベルの割合を増やすための工夫が必要である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、全項目ともに改善あるいは維持していた。 最も平均点が高かった項目は「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値4.4(前年度4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」平均点4.4(前年度4.3)であり、参加型演習による授業の進め方は、学生にとって効果的だと認識されていると考えられた。 前年度、授業評価項目のうち、4点未満の項目であった「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」4.0(前年度3.9)、「説明は理解しやすいものであった」4.1(前年度3.9)と改善した。授業の中で、評価基準について初回だけでなく途中にも再確認をすることや、教員の説明が学生にどのように受けとめられたか、理解度を確かめることを行ったことが改善につながったと考えられる。地域診断の主要な情報ソースはインターネット上に公開されているデータであるため、図書館及び情報の活用率が高く課題学習を行っていることが把握できた。 学習量では、毎回事前準備を必要とする課題を提示していたため、1回の授業の準備に1時間以上の学習量は必要であるのだから、「30分以上の準備」を1回のみ行った者が1名いた。図書館利用では、政府統計等のネット検索が必要であったことから「インターネットのホームページを検索」では100%が活用した。 また、成績の改善度と、学生の授業評価とで整合性が確認された。「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」平均値4.1(昨年度3.8)「的確に判断する力を得ることができた」平均値4.1(前年度3.3)で最も高く、また前年度より改善された。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目の主要科目にあたる本科目の位置づけられる科目である。授業の質評価は全体的に改善されたが、到達度の自己評価では、前年度よりも低下した項目があり、また最終科目評価平均点も低下していた。限られた集中講義期間で、地域診断に必要な基礎的知識、情報収集力、アセスメント力を効果的に習得できるよう、時間割運用や情報源の提示の方法等、授業の進め方の工夫が継続課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康相談活動	3	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、養護教諭一種免許状資格取得には必須科目である。学生の受講動機の項目「必修科目である」と「資格取得に必要である」を合わせると100%になる。学生は資格取得に必要と認識し受講している。 「学修準備性」として、学生のシラバス参考は77.8%（看護学科54.5%）、授業の計画についても44.4%（看護学科36.4%）であった。多くの学生は、シラバスを利用していた。 3年前期科目であり、看護および教職の授業の基礎的な学習については習得している。授業構成について、基本的な知識を身につけることだけでなく、既習した学習内容を考慮しながら、討論や演習を取り入れるという大きな構成は昨年度から変わっていない。今年度は、授業内で実施した演習を、さらに日常生活で振り返るような復習課題を作成し、演習内容の定着化を図るようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.3(±6.43)であり、再試対象者はいなかった。理想的レベル(80点)に達したものが2割いた。 目標別にみると、知識理解に関しては56.8%(±4.02)、思考判断に関しては82.0%(±2.71)、関心意欲に関しては86.3%(±0.92)、技能表現に関しては81.8%(±1.57)であった。知識理解に関しては、あいまいに記憶している点がみられた。思考判断については、授業中に具体的な事例を含め討論をした結果、授業中のワークシートやレポートに、良い結果が表出されたととらえる。技能表現についても、演習を取り入れながら行ったことで、基本的なところは習得できたととらえる。 「到達度自己評価」に関する項目の平均値は3.8～4.1点であった。看護学科の平均値(3.6～4.1)と比べた場合、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の項目は、討論や演習を取り入れた結果、0.4ポイント高かった。全体として、学科ポイントより高い項目が6項目、低い項目が4項目で大きな差はみられなかった。 学生の授業後の結果が概ね良好であった点から、授業は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップからの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」であり、教職課程の養護教諭一種免許状取得のために必須科目である。2年までの看護の教科および教職における学びが基礎になる。これまでの既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考え。 ② DP、行動目標からのみでの内容的妥当性 成績評価から、学生の思考判断および技術表現の達成度は高いと考えられる。知識習得については、学生に努力が必要な面がみられるが、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関する項目の平均値は3.4～4.1点であった。看護学科の平均値(3.8～4.1)と比べ、「説明は理解しやすいものであった」が最も低かった。 「学習量の評価」については、準備100%看護学科(67.1%)、復習100%看護学科(69.0%)で、看護学科より高い傾向がみられた。 「図書館利用」は66.7%看護学科(39.5%)、「データベース利用」55.6%看護学科(25.0%)「インターネット利用」は77.8%看護学科(47.5%)で、看護学科より高い傾向がみられた。課題学習を中心として、授業外で図書やインターネットを活用し学習に取り組んでいたと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけであり、概ね目標を達成したと考える。知識理解については、課題を残している。この点は、教職の実習と関わる「事前及び事後の指導」の授業で確認していきたい。 以上、養護教諭としての態度や技術力を身につけさせたるための演習や討論は継続する。知識理解については、他の授業での既習事項を確認しながら、重要な点の解説については、既習事項を確認しながら進めたい。知識理解については、さらに理解が進むよう工夫したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-rayディスクが使えず、急遽ちがう教材を使うことになった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。 ③小論文形式でふり返りの質を深めることとした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は81.23であり、全体の平均値80.69を上回った。 ②到達度の自己評価は全項目の中央値が3.0乃至4.0であり、全項目の平均も3.5～3.7であった。また、「少しそうでない」という項目に1～3名があり、授業がよく理解されていないという危惧がある。 ③授業の質評価は各項目の平均値が3.4～3.6であり、中央値は全て3.0であった。説明の理解しやすさで5名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を目指して努力しなくてはなるまい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①受講動機は「必修」に1,「資格取得に必要」が15であった。「必修」ではないので、「資格取得のための必修」と理解したのだろう。教職課程なので科目の位置づけは問題ない。 ②到達度自己評価において数値がもう一つなので、教職意識の醸成に努めたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①「授業の質評価」の結果から判断して、授業のわかりやすさにまだ課題があると思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①もっとわかりやすい授業改善に取り組まなくてはいけないだろう。 ②blue-rayディスクが使えるようにしてほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよく読んで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	言葉には力があるけれども「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中 にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解 している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アン ケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来 るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新 たな方法を試みてみたいと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多 様性と個別化を体现している現代の学生のニーズに対応してグループワーク や発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出してい く必要性を痛感している。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心としながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシート内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が10名中9名、そのうち80点以上が1名で、90点以上が1名であった。また、到達度自己評価においては、1項目を除きすべての項目で4.0を超えており、そのうち4.2以上が3項目あった。知識理解に関する項目は4.2であった。したがって、全体としては「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、小中学校の養護教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目「専門分野の課題を検討する力」「学びを深めたい意欲」など、高評価の項目があるとともに、各授業後の振り返りシートの記述内容などから、本科目の内容的な妥当性は高いと判断できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目の(3)(5)の評価が比較的高かったが、特に(5)の学生からの質問に答えたり、考察に助言をしたりする点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	将来、養護教諭をする可能性のある学生であるため、健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように進めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体の内容に触れ、繰り返しながら取り扱った内容もあり、指導案作成などの演習に費やす時間が十分とはいえず難しかった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても工夫改善の余地があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②その分理論的な部分を精選した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均は85.1であり、全体の平均84.55より高いが有意差があるわけではない。 ②到達度自己評価は各項目において平均が3.7～4.0であり、中央値は3.0～4.0であった。1～3/19程度達成感の少ない学生がいるので、なんとかしなくてはならないと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程なのでカリキュラム上の問題はない
--	-----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均が3.4～3.6であり、中央値も3.0であった。学生は講義の質に満足していないと判断する。おそらく授業研究の内容にまだ課題があるのではないだろうか。ただ、一度やらせるだけではイベントになってしまうので、注意事項を一言入れれば学生を褒める時間がないし、褒めるのも難しい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①授業研究は回ごとにステップアップできるように講義の設計を改善したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護教科教育法Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、高校看護一種免許状資格取得のための必須科目である。学生の受講動機は「資格取得に必要である」が100%である。学生のシラバス参照は100%であり、学修への準備性は見られる。3年生前期の科目であるため、看護専門科目の演習が重なり、両立することが困難な様子であった。多数の看護専門科目との進行状況を考慮しながら本科目の授業を進めていった。2名の受講者であり、協力して教材研究、授業案作成を行うことができていた。次年度も、看護専門科目との両立が課題となることが予想されるため、授業の進行に工夫が必要であるとともに、学生のタイムマネジメントは必須である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績評価の平均値は80.5点であった。1名は理想的レベルの80点を超えていた。成績の内訳は、B(優)が50%、C(良)が50%であった。学生の到達度自己評価は、3.0～5.0と幅があり、平均は3.9であった。「自分なりの目標を達成した」は3.0、「知識を確認、新たに得る」は4.5、「職業選択の参考になった」は5.0であった。高校看護教員に対して関心は高かったと思われ、知識も得たが、もう少し成果を得たいところもあったのだと思われる。しかし、全体的には教育目標は「やや達成された」と考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、高校看護の教員免許状取得を目的とする学生が受講している。3年生前期の科目であるため、これまでの自身が受けた看護の授業を参考にしながら受講することができていた。一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から学生はよく学んでいた。提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.3であった。授業案作成、発表など学生の参加度が高い授業であり、その点の評価は5.0であったが、評価基準の明確さや理解しやすい説明の項目は3.5であった。学生は図書館、インターネットの利用など自主的に学びを深めており、予習は11回、復習は平均8回は行っていた。質問も多く主体的な学修であった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	看護専門科目の演習と教職の演習が重なり、学生にとってはタイムマネジメントが大きな課題であると思われる。少人数の受講者であるので、負担がかかりすぎないように、かつ効果的に授業を進めていきたい。今年度は、初めてこの科目を担当したので、説明の足りないところもあったと思われる。次年度はより理解しやすいように改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	看護学科平均点72.0点(昨年度平均点74.2点)。全学科平均点72.4点。秀4人、優5人、良5人、可3人、不可3人。 平均点は昨年度並み。秀の割合が約倍となり成績上位層が厚くなった。ただし昨年は全員合格であったのに対し、本年度は3名不可がいた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 指導案の内容を見ると、教材研究のオリジナリティという点で更なる向上が必要と感じる。きちんと約束事を守った指導案というレベルには達しているが、より深い教材研究や授業方法への工夫など改善することができるだろう。このあたりは英語学科と同様の傾向が見られる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 指導案の内容を見ると、成績上位層はある程度満足できる内容となっている。過去三力年と比較して上位層の質は一番高かったと感じる。その一方で、最低基準をぎりぎりクリアした者、基準を満たす指導案が作成できなかった者も目立つ。授業参加の方法をより具体的に指示するなどの工夫が必要と思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績上位層と不合格を含む下位層まで万遍なく分布しているという意味では、集団の学力を測定するテストとして適切なものであったといえる。ただし、教職課程の性格からすれば下位層の底上げは大きな課題といえる。英語学科とも共通するが、まずは最低基準に到達できない指導案をなくすよう、より具体的なポイントを明示しながら授業を進めたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「必修教科」50%「資格に必要」100%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関するを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③今年度は生徒が授業に参加するための課題等を与えることなく生徒の自主性に任した対応であったため学習量がほとんどない状況であった。次年度の反省として次の授業に向けての準備、授業後の振り返り等を充実させたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生2名中「かなり」「わりに」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」の順で「1名、1名」「1名、1名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」の順で「1名、1名」「0名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」の順で「1名、1名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「わりに」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、職業倫理では「かなり」「わりに」が「1名1名」職業選択出が二人とも「かなり」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足な結果となった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「必修教科」1名50%「資格に必要」100%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、少数ではあるが、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見はなかったが、積極的に授業に参加し授業後の雑談の中では教職を希望して良かった「実体験話などがあり、すぐわかりやすくおもしろかった」というものであった。 ②授業の質評価についてはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については今年度予習や課題を与えることなく自主性に任せた。結果としては十分なものとは言えず来年度に向けての反省となった。 ④情報機器や図書館の活用もなかった点についても反省するものであった。来年度は学生が主体的に活動するような授業も考えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることでできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度は学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「資格に必要」100%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③今年度は生徒が授業に参加するための課題等を与えることなく生徒の自主性に任した対応であったため学習量がほとんどない状況であった。次年度の反省として次の授業に向けての準備、授業後の振り返り等を充実させたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生8名中「かなり」「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「3名、3名、2名」「1名、4名、3名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、4名、3名」「1名、4名、3名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「2名、4名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、4名、3名」「1名、4名、3名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ「1名、5名、2名」「1名、5名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足なげかつとなった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「資格に必要」8名で100%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、少数ではあるが、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見はなかったが、積極的に授業に参加し授業後の雑談の中では教職を希望して良かった「実体験話などがあり、すぐわかりやすくおもしろかった」というものであった。 ②授業の質評価についてはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については今年度予習や課題を与えることなく自主性に任せた。結果としては十分なものとは言えず来年度に向けての反省となった。 ④情報機器や図書館の活用もなかった点についても反省するものであった。来年度は学生が主体的に活動するような授業も考えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることでできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度は学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体99名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が10.10%、「資格取得」が3.03%、「関心」が2.02%、と「GPAアップ」と「友人が履修」が1.01%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「30, 38, 33」で97.12%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「3, 0」で2.88%、無回答が「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「18, 27, 47」で88.46%であったが、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与え、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には看護と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は78.95点であり、再試験対象は3名で2.88%であった。分布的には、90点以上が10.58%、89～80点が47.12%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は57.69%であり、79～70点が34.62%、69～60点が9.62%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは44.23%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 104名の学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「23, 35, 36」と「23, 36, 41」で97.12%と96.15%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)にそれぞれ、「3, 0」と「2, 2」で2.88%と3.85%であった。それに対し、③専門分野では、＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「14, 25, 51」と「15, 21, 55」で86.54%と87.50%であったのに対し、否定的回答は「12, 2」と「9, 4」で13.46%と12.25%となった。また、＜意欲＞に関し肯定的回答は「15, 23, 52」で86.54%であり、否定的回答は「10, 4」で13.46%であった。④、＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「13, 19, 47」「13, 22, 46」で75.96%と77.88%であったのに対し、否定的回答は「10, 6」と「15, 8」で15.38%と22.12%であった。⑤学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「16, 32, 45」で89.42%であったのに対して否定的回答は「7, 4」で10.06%であった。⑥＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「13, 21, 35」で66.37%であったのに対し、否定的回答は「23, 12」で33.65%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では2%と3%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ13.46%と12.25%、＜意欲＞も13.46%であり、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では15.38%、22.12%である。＜倫理・規範＞に関しては10.06%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が前者2つは2%と3%台、そして残りが10%台であった。これに対し、専門分野の課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はそれぞれ12乃至13%台、13%台、15%台、そして22.12%となった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では96乃至97%以上であり、専門と技能表現の分野では＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞が75乃至77%台となったが、他は86乃至87%台であり、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員への要望としては、授業の終わり頃になると「早口」となる点と「板書が読みづらい」点が挙げられる。この点は、授業の進め方の時間配分で対処したい。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予復習＞6回を6.25%が実践し、1回以上は53.37%で約半数であった。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「30.38,33」で97.12%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「18,25,43」で82.69%であった。ただ否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「14.4」で17.31%と2割弱であった。＜学生の質問を受け付け、それに答える機会＞では、肯定的回答は「18、27、47」で88.46%であり、否定的回答は「10、2」で11.54%あった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「10,21,41」と69.23%であり、否定的回答が「22,9」で29.81%と数字が大きかった。④ 今年度から、学科のAB両クラスの全員の授業となり距離感が遠い。それだけに、知識・理解を得られるような改善に向け、1)レジメの配布、2)予復習の必要性和方法の明確な指示、3)毎授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の必要性を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の知識と理解に関する95%を超える肯定的回答率の高さは、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、＜授業の進め方とその向上について＞の④に記載した改善策に取り組む工夫をする。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、時間配分を工夫すると共に、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体97名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが97.9%であって、他の動機は「単位数確保」が10.3%、「資格取得」と「友人が履修」とが2.1%、さら「関心」が1.0%であった。自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「20, 33, 23」で100%であり、否定的回答は0であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「14, 16, 34」で84.21%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるように、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は94.5点であり、分布的には、90点以上が85.18%、89～80点が6.48%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は91.67%であり、79～70点が4.63%、69～60点が0.93%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは55.56%で、未達者は3人で2.78%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「19, 45, 34」と「16, 43, 37」でそれぞれ100%と96.97%で、否定的回答は「少し」「全く」が「0, 0」で0%と「2, 1」で2.78%で、無回答が共に1人、0.93%あった。③ 専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「13, 32, 50」と「14, 32, 45」で87.96%と84.26%であったのに対し、否定的回答は「1, 2」と「5, 2」で2.78%と5.64%で、無回答がいずれも0.93%であった。＜意欲＞に関し肯定的回答は「13, 29, 50」で85.19%であり、否定的回答は「4, 3」で6.48%であった。④ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答は「13, 26, 50」と「8, 24, 50」で75.93%であったのに対し、否定的回答は「7, 3」と「11, 6」で9.26%と15.74%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「10, 35, 45」で83.33%であったのに対して否定的回答は「7, 2」で8.33%であった。⑥ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「11, 29, 40」で74.07%であったのに対し、否定的回答は「7, 2」で8.33%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞ではそれぞれ0%と2.78%であった。また、専門分野の学習においても学生の達成自己評価の否定的回答の数値は同様に低かった。すなわち、＜検討する力＞は2.78%で＜判断する力＞では5.64%であり、＜意欲＞では6.48%で、すべて1桁であった。しかし、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得ではそれぞれ9.26%と15.74%であった。＜倫理・規範＞に関しては8.33%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞は否定的回答は0であり、自己研鑽し社会貢献への姿勢である＜倫理・規範＞の分野では否定的回答が8.33%台であった。さらに、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び専門分野の地域社会の課題や協働の協力の＜意欲＞では否定的回答は6.48%であり、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関する否定的回答はそれぞれ9.26%と15.74%であった。③以上から、専門分野の70%台の＜コミュニケーション、表現力＞を除くと、CPとDPの位置づけから見ると肯定的回答は、専門分野を含め80%台以上であり、＜コミュニケーション、表現力＞を含め、すべてにおいて否定的回答は20%未満であり、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ要望としては、レポートの課題が多いので減らしてほしいという声があった。また、レポートの字数も最初から明確にして欲しいという声もあった。検討し、適切に対応したい。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予・復習＞6回を予習が12.12%、復習が35.35%実施し、1回以上で6回未満の学生もそれぞれ24.24%と23.23%で、予・復習のどちらか30分1回以上の学生は47.47%であった。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「32, 38, 26」で96.97%で、否定的回答は「少しそうでない」「全くそうでない」の順に「3, 0」で3.03%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「16, 37, 40」で93.94%であった。否定的回答は「5, 0」で5.05%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「9, 31, 45」で85.86%あり、否定的回答は「10, 4」で14.14%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「8, 29, 39」と76.77%で、否定的回答が「19, 4」で23.23%であった。④ 今後のことであるが、学生の授業評価によると、肯定的回答が知識・理解につき90%以上、質問と答えの機会につき80%以上、参加の機会が70%以上であった。これを参考に、1) 今後も理解向上のために、レジュメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 2学科の1年生全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、看護もグローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。 ②毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。 ③学習修得に向けたモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。 ④科目の評価視点は明確に示し、各自に印刷物として配布した。 ⑤情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は79.5点(±9.5)だった。96.3%の学生が標準的レベル(70点以上)に達しており、理想的レベル(80点以上)に達した学生は53.2%だった。1名が再履修となった。レポートの平均得点は、40/50点(得点率80%)で、標準的レベルに達した学生が88.1%、理想的レベルに達した学生は58.7%だった。 ②DP観点別の成績はいずれも高く、知識理解の平均値が47.6/60点(得点率79%)と、90%の学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生は54.1%だった。意欲関心の平均値は15.7/20点(得点率78.5%)で、標準的レベルに達した学生は90%、理想的レベルに達した学生は53.2%だった。態度の平均値は16.2/20点(得点率81%)で、93.6%が標準的レベルに、理想的レベルに達した学生は67.9%だった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は4.1、“知識を確認・修正・新たに得ることができた4.3”、“専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.3”、“専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた4.2”、コミュニケーション力や表現力を高めることができた4.2であった。 ④授業の質評価は、“レポートなどの評価基準の明確さ4.4”、“学習の範囲や課題の明確さ4.4”、“話し合う、発表するなどの機会があった4.5”であった。 ⑤自由記述から、「図書、文献を調べ読んだ、課題より深く調べた」など学生が主体的に取り組んでいる様子がうかがえた。学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が90%・84%、4～6回以上している学生が62%・44.7%いた。課題以外の学習に取り組んだとする学生は22.7%だった。 ⑥図書館の図書・雑誌利用率は95.2%、学術データベース利用率94.2%、インターネット利用率94.2%と、いずれも利用率は高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。講義は、看護学科の学生を意識した内容で、1年次で身につけなければならない講義内容を含んでおり科目の位置づけとして内容は妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度(知識理解、意欲関心、態度)及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、授業工夫に一定の成果が認められた。次年度も今年度の授業内容を基盤に学生の意見など鑑 み検討をくわえる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的とした科目である。上記に記載した評価点、観 点別学習達成度(知識理解、意欲関心、態度)及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。今年度実施した授業工夫をも とに、より学生が関心意欲をもって取り組めるよう講義内容を検討する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次の授業で説明を行った。 毎回の授業内容について復習、ならびに復習の過程でさらに興味関心を持った内容について調べまとめるための用紙を配布し、提出させることによって、学生の学習の状況を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.6(±8.5)点であり、再試対象者は5名であった。成績分布別にみると、90点以上が4%、89～80点が27%、79～70点が44%、69～60点が25%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち31%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が20%、「わりにそうだと思う」が55%、「まあまあそうだと思う」が19%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」とい質問では、「かなりそうだと思う」が52%、「わりにそうだと思う」が37%、「まあまあそうだと思う」が11%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.4)。また、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が51%、「まあまあそうだと思う」が25%と、ほとんどのすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果より大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていた。 学生の自由意見から健康を維持・増進させることについての興味や関心を高めることのできた学生が数人いた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が3.9～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、予習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が42%、「1回」が15%、「2、3回」が24%、「4、5回」が12%、「6回」が7%いた。一方、復習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が6%、「1回」が9%、「2、3回」が12%、「4、5回」が13%、「6回」が59%いた。このように復習については60%近くの学生が習慣的に行っていたことから、学習に対する動機づけはある程度できたと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.0(±6.1)点であった。成績分布別にみると、90点以上が13%、89～80点が71%、79～70点が12%、69～60点が4%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約84%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が39%、「わりにそうだと思う」が49%、「まあまあそうだと思う」が12%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が22～34%、「わりにそうだと思う」が40～49%、「まあまあそうだと思う」が17～33%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8～4.2）。 「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が31%、「わりにそうだと思う」が40%、「まあまあそうだと思う」が25%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。 「技能・表現 (DP5)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）についても、「かなりそうだと思う」が25～47%、「わりにそうだと思う」が31～41%、「まあまあそうだと思う」が20～30%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.2）。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健福祉学は人々の健康と福祉(幸福)を探究する研究の営みであることを踏まえ、1年次に総合人間科学「基礎教養」として位置づけられている。3学科(看護・福祉・栄養)合同による1年生の必修科目である。3学科では各領域の専門性を発揮できる能力を理解するとともに、お互いの専門性を理解し、かつ連携や協働の必要性、また、そこにおける課題について考えられるように科目だてされている。1年次の学生が、卒業生の専門職としての活躍の実際を聞くことにより、職業のイメージ化が図れ、協働の重要性と自らのキャリア形成に向けた動機づけがなされ、自己の課題が発見できるよう学部入門として取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は73.9点であり、再試験対象者はいなかった。理想的レベル(80点以上)に達した者は15名と少なくとも全体の7.3%であった。目標別では「知識・理解」は72.4%、「態度」は83.5%の到達であった。最終評価はレポートで行い、レポート内容から課題へのコミットが十分ではなく、取組み姿勢が希薄といえる学生は3名いた。学生による授業評価では「自身が学ぼうとしている専門分野への意欲」「課題を検討する力」「職業選択の参考」などは4.0以上の高評価であった。反対に授業中の学生参加(話し合う、発表する)が少なかったこと、またこの授業における図書の利用や文献検索等の主体的活動は7%程度であり、次年度に向け検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、学部共通の基礎教養にあたる科目で、自分が目指す専門領域の導入部分に位置する1年次前期の必修科目である。専門領域への知識の修得や意欲を持つこと、また他職種との連携の意義や今後の課題を考えること等、学びを通して一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識理解」72.4%、「態度」83.5%であった。本科目の主要な要素である「健康」「幸福」「生きがい」「役割」を基盤に、キャリアや他職種協働の意義については概ね達成できていることから内容は妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する など学生が参加する機会が設けられていた」が、平均3.1と他の項目に 対して低かった。3学科合同による科目運営において学生同士の コミュニケーションを図り、学生参加の機会を設けるなどの工夫が 必要と言える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学部共通の科目として1年次の前期に位置づけられており、保健福祉学 入門としての基礎的知識や、専門性、協働、キャリア形成への動機づけ は概ね達成できた。学生同士の3学科間の連携や理解を深め、授業に おける学生の参加の場を設けることなどは、次年度の課題として検討 したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の学習量(復習を重視)を増やし、講義内容の理解を確実にすることが専門科目につなぐために必要と考え以下の取り組みを行った。 ②本試験前にミニテストを3回実施した。1、2回目のミニテストは、テスト終了後に正答を導くまでのプロセスをパワーポイントを使い解説モデルを示した。3回目ミニテストは、試験終了後に各自で解説レポートとして提出させた。 ③評価項目は、講義途中に繰り返し説明した。特に、解説レポート作成については、他科目の教科書や参考図書を使うよう指導した。また、解説レポートの提出期限が他科目の提出物と重ならないよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は77.2点(±11.3)であった。標準的レベルに達した学生は92%、理想的レベル(80点以上)のに達した学生は51%だった。再試験対象者は7名で6名が合格した。ミニテスト・解説レポートの平均得点は、12/15点(得点率80%)だった。 ②自由記述から、「図書館で調べた、ポイントを整理した、他教科と併せ勉強した」など学生が主体的に取り組んでいることがうかがえた。学生の学習量評価は、1回30分以上の復習をした学生が92%、4～6回以上している学生が42%いる。なかには11回と答えた学生もいた。また、課題以外の学習に取り組んだとする学生は59%いた。 ③知識理解の到達度自己評価の平均値は4.6と“知識を確認・修正・新たに得ることができた”と回答している。また、“専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.5”、“専門分野において的確に判断する力を得ることができた4.5”、“学びを深めたいと意欲を持つことができた4.5”であった。 ④難しい内容は繰り返し説明する、評価基準は名貫うに示すなどした成果か、授業の質評価平均値はいずれも4.6だった。また、質問を受ける時間を設けたは4.5であった。 ⑤図書館の図書・雑誌活用率は87%、データベース利用率72%、インターネット利用率90%と昨年より利用率は上昇した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は高校生物の基礎を固め、大学の関連科目(形態機能学、疾病学など)につなぐための内容を含んでいる。今年度から選択科目となっているが、ほとんどの学生が受講している。専門基礎科目につなぐ基盤科目として、1年次で身につけなければならない基礎知識の内容を含む本講義内容は妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 看護師国家試験必須問題を意識した内容も入れているが、学習達成度及び学生の知識理解到達度からみて、科目内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①高校の生物を学んだかどうかで、学生の学習に差が出る科目であるが、上記に記載したように、学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、 授業の改善策の効果は出ていると思われる。今後も今まで実施してきた改善策を継続し行う。 ②特に、ミニテスト解説レポートの提出回数を削減したこと、また、提出期限を他科目の状況をみて考慮したことは、学習に かける時間の確保にもつながったと思われる。この取り組みは継続し行う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・専門基礎科目として専門科目につなぐために必要な基礎知識・理解の基盤は、達成できたと思われる。学生の意欲を引き出し、理解度に差が出ないよう引き続き、 今までの授業改善を継続し実施する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事前準備としての事前クイズを実施し、予習の時間を確保すると同時に事後学習として、授業の最後にグループワークを実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験ならびに総合的な成績評価としては良好であったが、グループワークのレポートについて、理解が不十分と思われるものがそれなりにあった。試験のように何かをやれと言われればそれは難しくないのだろうが、どんな数式を使うか自分で考えるという部分で不十分さが残った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年生科目であり、単位数確保を目的とした履修者も多く、履修者側に位置づけが十分に伝わっていなかった可能性がある。そのため、内容の良しあしとは別に、授業の目的がうまく伝わっていなかった可能性があり改善を考えたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループワークについて、評価の公平性に対する疑問が一定数あったため、改善を考えたい(他の学生に任せきりで何もしない学生がそれなりにいたようだ)。また、事前クイズについては、採点の対象外としていたが、事前クイズへの回答も成績評価に加えることで、予習の学習量を増やしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	開講初年度ということで、学生も私も手探りの部分があったが、数学という科目の特性もあり、簡単に感じる目標レベルまで楽に到達できる人と、難しく感じそうでない人との差が大きかったように思える。この部分の調整は難しいが、レベルの高い学生への追加課題などで対応することを考えたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であり、看護学科のほか、英語学科および福祉学科が一つのクラスとして受講した。本年度に限り、本科目を私が担当した。看護学科の受講生は9人、受講動機は、「単位数を確保する」85.7%、「関心のある内容である」14.3%であった。看護学科は理系学科であり、化学を理系学生としてのレベルで受けた方が望ましいが、英語学科、福祉学科との混成クラスであったため、本講義では、英語学科や福祉学科にあわせて、将来、専門分野で特に化学を必要としない学生向けに原子や分子の概念と構造、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を、一般教養レベルで解説した。具体的には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と動き、酸化還元などについて、最低限の定義、理論および法則を、化学初学者の大学生向けとして、入門的に解説した。 ②講義は、スライド中心に進めている。教科書は指定しなかった。その代わりに、配付資料として、解説書を一から作製した。 ③講義に用いるスライドは、栄養学科向けのものを、大幅に簡単に用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験を受講した学生の最終成績の平均点は89点、不合格者は受験しなかった学生1名であった。十分な成果であるとする一方、文系の学生にレベルをあわせた講義内容に対して、理系の看護学科の平均点が、福祉学科の平均点より低かったことを考え合わせると、完全に満足できるレベルには達していない感はある。看護学科学生の受講態度は、概ね良好であったが、英語学科と福祉学科の受講生が全員皆勤で出席したのに対して、看護学科の受講生で皆勤はわずかに4名であった。看護学科学生の成績準位は、出席率の準位と一致していた。意欲的に取り組んだ者が、高い成果を挙げる典型的な例であろう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は充分であり、内容的には妥当と考える。 全体としては、妥当な内容であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度は、比較的良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は、意欲をある程度感じさせるものであった。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」を考慮して、生活や身の回りの事例をできるだけ挙げて、講義を進めるようにした 本年度のみの担当であるので、今後の改善については、コメントを控える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況は、良好と考える。本年度のみの担当であるので、次年度については、コメントを控える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「単位数を確保する」83.3%、「関心のある内容である」、「先輩に勧められた」がともに16.7%であった。保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均は80.41点で、再試験対象者は0名、理想的レベル(80点以上)に達した者は10名であった。前期試験の出題形式は、昨年度より従来の知識理解を文章で論述する形式に加えて、重要な語句を解答する(いわゆる穴埋め)形式および具体的な事例に合わせて法的な知識理解に加えて、支援する態度も併せて問う形式で出題した。知識理解の論述について、要点を適切に押さえている答案が多かった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.5、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.2と高く、「自分なりの目標を達成した」の平均値も4.0であることから、学生の目標達成度は高い。また、DP1には加えていないが、「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値もともに4.0と高い。これは「法学概論」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、どうしても「単位目当て」の学生が多くなり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.4と高く、レジュメ作成など、理解しやすいように様々な工夫を凝らしている努力が報われていると思われる。また、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.2、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.0であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3であった。この数値は講義の性質上、やむを得ないものとする。学習量について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は6名、全く復習をしなかった学生は4名で、約半数の学生が予復習を行っていないが、6回以上予復習行っている学生が1名いたことがせめてもの救いだろうか。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「テキストを読んだ」と回答している学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「必要性を感じなかった」、「何していいかわからなかったから」という回答が見られた。学生からの意見については、「今まで受けた社会科の授業の中で一番わかりやすかったです」との意見があった。今後もより良い授業内容を目指して、さらに改善向上を目指したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が学生に定着することを目指したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書「医療英語入門」に沿って、医療現場における会話の練習、医療の単語学習（病名、症状、薬剤、道具）、文法解説、リスニング練習を行った。②教科書にはリーディングのパートがなかったので、長い会話部分の和訳を行った。病院における病院スタッフと患者の会話なので、学生にとって状況が分かりやすく、辞書なしでも概ね和訳することができた。また医療現場における病院スタッフと患者の英会話表現が学生にとって参考となった。またDVDを使用し、医療に関連した映画のワンシーンを鑑賞し、このシーンについての英文サマリーの和訳を行った。視覚的に医療英語表現を学べたことで、学生評価でも映画のサマリー和訳が楽しかったと評価が高かった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は95点、再試対象者は0名であった。DPにおいても「知識の確認、修正、新たに得る」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」項目に高い評価を上げる学生が多かった。しかし、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」や「職業選択の参考になった」項目では、他の項目と比較して評価は低かった。看護学科の性質上、英語の授業は選択必須科目という観点から、学生は単位を取得することに重きを置き、将来の職業とは直接的な結びつきを感じることでできなかったことが第一の要因として挙げられる。学生には医療現場での国際化という観点から指導を行ったが、実際には学生の認識は高まらなかった。但し、医療英語の習得にはかなりの時間を要し、指導を行ったので、「専門分野で学びを深める」「専門分野で必要となる技術を身につける」の項目では比較的高い評価を挙げた学生が多く、学期末の高得点へとつながったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性：自らが医療現場で役立てることができる英語の修得を目標にする。医療現場で使用される重要な英語表現を身につける。これはCPの『豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける』の目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：DPの特徴として「職業選択の参考」では高い評価を示す学生と低い評価を示す学生がおり、質問の趣旨を理解することに個人差がかなりあったと考えられる。看護学科における英語学習の観点から、DPの「職業倫理」「職業選択」の項目には質問方法の工夫が必要と思われる。全般的に、学生はのびのびと英語学習を行っており、授業も楽しかったという意見が寄せられ、以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価： オリエンテーションにおいて学生は評価基準や学習の範囲や課題について、よく理解していた結果が授業の質評価に反映されたと考えられる。②学習量の評価： 看護学科は実習、レポートなどで1年時より専門領域の学習が多いために、英語は授業内で復習すべき点を徹底させ、予習復習時間を短縮できるように配慮した結果、予習復習を行った学生が少なかった。但し、語学学習の習慣化を行うためには、一定量の宿題の必要性も検討すべき課題と感じた。③学習のための情報利用、図書館利用： 、シラバスを参考および活用にした学生は全体の半数であった。英語学習に対する関心度の低さが示す数字なのか、あるいはシラバスを参考にする習慣が身についていないからなのかは理解できないが、オリエンテーションでの授業に関する情報の徹底化が必要であると感じた。図書館利用は皆無であり、情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護学科の教科書「医療英語入門」は医療現場で実際使用される場面や語彙が編集されており、学生が教科書に沿って学習することを容易にしている。また、卒業後も医療現場で英語が要求される場面においても、ハンドブックとしての使用が可能であり、役立つ情報を提供していると思われた。但し練習問題や会話練習の英語は若干、難易度が高く、学生が解答および暗記で苦勞しており、指導面で事前にヒントを与える等の工夫を行った。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の66.7%を除いて、③「関心のある内容である」は66.7%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「82.1点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解、(DP-3)の意欲関心、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.2点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.7点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次 年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識 やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと 習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身に つけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行いう小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出して学期後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	浅羽 修文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、今年度(平成30年度)より、「情報リテラシー」から「メディアリテラシー」に科目名が変更されている。情報リテラシーとメディアリテラシーとでは、当然ながら学ぶべき内容が異なるため、「情報リテラシー」の授業計画や改善案などは参考にならないと考えた。そのため、本科目では、新しく授業設計を立てることにした。1回目の授業で、受講生に対し「これまで、情報の受け取り方や送り方について学んだことがあるか。」と質問したところ、ほとんどの受講生が「はい」と回答した。この事実から、多くの受講生は、情報受発信に関する基礎的知識があると判断した。本科目では、その知識をいかに活用させるか、また、現実の場面といかに結びつけさせるかに重点をおいて授業設計を立てることにした。現実の場面と既存の知識とを結びつけるために、実際に掲載された新聞記事やニュースなどを題材とした教材を作成した。そして、そこから、我々はどうのように情報を受け取るべきなのか、また、情報を送信する場合はどのようなことに気をつけるべきなのかについて考えさせるような授業を設計した。 また、コンピュータ操作の基礎も学んでもらいたいことから、上述の内容の課題を作成する際は、文書作成ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアを用いて作成するように指示した。各ソフトウェアの基礎的な操作方法の学習も授業設計の中に取り入れた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均は、76.5点と高く、多くの受講生が良いレベルまで目標を達成したといえる。受講生の到達度自己評価を見ても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が4.3、「自分なりの目標を達成した」が4.2であり、高いレベルで目標に到達したと感じている。 しかし、成績が「D」であった受講生が1名、途中で授業に来なくなった受講生が1名いたことは念頭に置く必要がある。ともに、出席率が悪かったことが原因であるため、出席の重要性について、これまで以上に強調する必要があると感じている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、メディアから発信された情報をどのように受け取るべきか、また、メディアを通じて情報を発信する際に何に気をつけるべきかについての知識を身につけ、それを現実の場面と結びつけながら物事を判断する考え方を身につけることを目的としている。そのため、「2.到達度自己評価」の中でも、特に、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と、「(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」、「(9)職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」の3つの項目が重要であると考ええる。これら、3つの項目の平均点を確認すると、(2)は4.4、(3)と(9)は4.1になっている。全て、4.0を超えており、本科目の内容的妥当性は高いと考える。ただし、(3)と(9)の4.1は、まだまだ伸びる可能性がある。そのため、メディアリテラシーとして事象を理解する視点や考え方や、行動規範についての指導など、さらに工夫する余地は残されていると判断できる。 また、本科目では、コンピュータ操作の基礎も学ぶように設計している。看護学科の受講生は、将来、看護師などの医療・福祉関係に就いたときにもコンピュータを操作する機会が多いことが想定されるため、「2.到達度自己評価」の中の「(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」という項目も重要である。その平均点は、4.3であった。この項目から見ても、本科目の内容妥当性は高いと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価の「3. 授業の質評価」の各項目の平均値は、4.3～4.6を記録しており、全体的に高い評価を頂いた。授業の質については、概ね良い方向で進められていると感じている。ただし、「(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.3であり、全項目の中でも低い値であることから、改善の余地が含まれていると考える。授業が始まる際には、学習の範囲と課題を明示することを改善方策として挙げたい。 授業評価の「4. 学習量の評価」の予復習時間に関しては、本科目は1単位の科目であるため、意識する必要はない。それにも関わらず、何回かに渡って予習・復習した受講生がいたことは、良い傾向であると考え。また、授業の記録に関しても、しっかりと記録している様子が伺える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標の到達度においても、授業の質評価においても、概ね良い評価を得ることができた。また、CP、DP、カリキュラムマップの観点からも、内容的妥当性は高いと判断した。しかし、課題は幾つかある。その主な課題を以下に記す。 ・出席の重要性を強調する。 ・メディアリテラシーの観点から、社会現象や人との繋がり方などの事象を理解する視点や考え方を膨らませる授業設計をする。 ・情報の受け取り方や送信の仕方に関する行動規範について、さらに明示的に指導する。 ・授業が始まる際には、学習の範囲と課題を明示する。 来年度は、上述の内容を考慮に入れて授業改善に努めたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、大学生としてのICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろPCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やデータ処理スキル、インターネットの活用手法、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。 受講動機では、今年度より選択科目となったため、前年度までの「必修科目である」の回答が「単位数を確保する」に大きく流れていることが推察される。しかしながら、「関心のある内容である」が約31%と前年度に比べて急増しており、第1回授業においてカリキュラム全体における本科目の位置づけや狙いについてしっかりと説明した効果が認められる。ただ、「単位数を確保する」が約60%ある点は、次年度に向けて改善が求められる点である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.0点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「秀・優」の学生が46.7%、「良」も加えると75.7%に上っており、授業目標としているレベルを達成できたといえる。「可」の24.3%の中の多くは、授業内容を十分理解できてはいるものの、復習不足から課題や試験等において満足のいく結果を残せていない状況である。最低条件としての単位修得には至っており、基礎科目という位置づけからも、今後の検討課題といえる。 学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として(2)の項目において、高い数値を示しており、学生自身も授業目的であるICT活用術の修得を実感できていると言えるのではないだろうか。ただし、1年生前期の科目であるため、本授業の内容が4年間の大学生活や卒業後の業務の中で重要な要素となる点については、学生自身が把握しきれておらず、他の項目の数値の伸び悩みにつながっていると考えられる。各授業の中でこれらについては伝えてはいるものの、次年度に向けて改善の余地を残している。 その他、(9)、「(10)の項目については、看護学科というもあり卒業後の職業目的が明確に絞られていることが反映されているのではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力あるいは4年間の大学生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される選択科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫している。学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、昨年度も同様の結果であったため、今年度はグループ活動による発表等を組み込む予定であったが、受講者が多く実施が難しい状況となってしまった。次年度に向けて別途の手法を検討したい。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で創造力していく課題になると対応できない点が見受けられる。将来像との結びつけの部分でモチベーション低下が影響していることも考えられる。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題は無いと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、(1)から(3)に関して「かなりそうだと思う」が約5割程度である、「わりにそうだと思う」を含めると8割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、授業内課題については周囲と相談しながら行わせるなど、PCとだけに向き合う事のないようにしたが「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」あわせて6割程度であり、検討の余地を残した。 「学習量の評価」では、(4)について「していない」が7割程度である。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、家庭にPCを持っていない学生も多く、対応を検討する必要がある。 また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていた。これについては、昨年度に引き続きよい結果が得られている。今後は、更なる数値の向上を目指し、検討を重ねていきたい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点では、昨年度に引き続きよい評価を得ることができた。しかしながら、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点では、さらなる改善の余地を残した。 以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫、グループ活動への取り組みなど、次回に向けた改善を検討していきたいと考えている。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進めた。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学 I	1	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識(高校生物履修の有無)にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であったので、 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。 ②また一方向性で知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的にを行うようにした。 ③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について毎回、講義始めに小テストを行った。 ④折に触れ、医療に関するニュースや実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は70.6点であり、標準的なレベルに到達していると考えられた。 到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが、割に、あるいはかなりできた。と評価した学生は101/106人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた。とした学生は99/106人おり、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかったことは、上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうが、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(4)自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、事前30分の復習の促しには繋がったと考えられたが、その範囲は限定的であったかもしれない、知識の定着にちて、さらなる工夫を要する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルの工夫も必要と考えられた。 到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し「、かなりそう思う」とした学生が75/116人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにも関わらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。 学習の記録については、講義に沿い、教科書内書き込むことを勧めたが、他の教科においては、ポートフォリオ作成を指導されており、全体としての学習方法としての一貫性について再考する必要があると考えられる。 前期講義最終日に行ったアンケートにおいて、国家試験対策を希望する声も比較的に見受けられたことから、後期の小テストでは、国家試験の過去問などを取り入れ、講義で学習した内容の定着と多面的な理解の必要性について実感できるよう工夫をしたい。 また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持を支援できる工夫を今後重ねていきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①看護師国家試験受験資格を得るための必須科目であり、学ぶ内容も多く1年生にはかなり難しい科目である。そのため科目の狙い・到達目標を丁寧に説明した。 ②講義回数半ばで、小テストを入れ学生に学習量を増やすよう促した。 ③興味関心を持たせるため、感染症事例やトピックスを教科書の内容にプラスし説明を行った。 ④講義途中に学生に質問をし、挙手により反応をみた。理解度が不十分な箇所は繰り返し説明した。また、講義終了後には質問を受ける時間を設けた。 ⑤実習には国家試験を意識した内容を含めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は70.0点(±12.5)であった。78%の学生が標準的レベルに達しており、理想的レベル(80点以上)に達した学生は24%だった。再試験受験者は23名で全員合格した。また、再履修者(3名)は、全員標準的レベルに達していた。小テストの平均得点は9/15点だった。 ②知識理解の達成度は、75%が標準レベルに達した。自由意見より、“ノートにまとめた、図書を使い理解を深めた、わからないところを調べた、復習をした”など多くの学生が主体的に学習に取り組んでいた。“自分なりの目標を達成した平均値4.0”、“知識を確認、修正、新たに得ることができた4.6”、“専門分野の学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4”であった。思考判断の達成度は70%が標準レベルに達した。“専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.5”、“専門分野において的確に判断する力を得ることができた4.3”であった。 ③授業の質評価では、“テスト・課題レポートの評価基準が明らかに示された平均値4.3”、“説明は理解しやすいものであった4.4”、“自分の意見をまとめる・話しあう機会が作られた4.1”、“学生の質問を受けつけ答える機会が作られた4.3”であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は看護専門基礎科目である。専門科目につなぐための基礎知識を培う科目であり、1年次に学ぶ内容としては妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 初学者としての1年生が学ぶ科目としては、難しい科目である。しかしながら、知識理解及び思考判断の達成度や上記に記載した到達度自己評価より内容は妥当であった。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の自由意見から、多くの学生が主体的に学習に取り組んでいることがわかった。1回に30分以上の予復習を2回以上した学生は65～75%、6回以上した学生が13～20%だった。また、自発的に学習した学生は73%いた。一方で、予復習に1回も時間をかけなかった学生は8%と例年と同じであった。成果は概ね上がっているので今までの授業工夫を継続し実施する。 ②今年度は図書・雑誌を利用した学生が52%、インターネットを利用した学生が65%、学術データベースを利用した学生が26%いた。学生の自由意見から“テレビで授業に関するものを見た”、“図書館を利用した”など学生の主体的学習が進んでいることがうかがえた。今後も興味関心を持つようにトピックスなどを交えて講義を行う。 ③学生の意見で“喋るのが早すぎる”との意見が出ている。学生の状況を見つつ、話すスピードを調整し講義を進めるようにする。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門基礎科目としての本科目の位置づけから、看護に必要な知識及び課題を解決するための思考判断の到達目標は概ね達成できた。次年度も今までの授業改善を継続し行う。また、例年8～10%の学生が予復習に十分な時間をかけておらず課題が残った。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が入学直後に取り組む必修の看護専門科目であり、看護学への導入として位置づけられる科目である。講義の実施に当たり、重点を置いたことは、主体的な学習である。初回の講義でシラバスを説明し、学習の進め方や課題学習の確認を行っている。講義の前半部分は、看護の歴史と定義を概説し、個人の課題学習への導入を行った。第二段階では「看護の4つの概念」について、「人間」「健康」「環境」「看護」について、ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護に対する考え方について、個人ワークとグループワークを取り入れ、学習成果発表会を行った。グループ学習時は、毎回、自己評価表を記入し、自己の学習成果を確認しながら学習をすすめた。また、講義の後半部分は、第三段階として、看護者の倫理、保健師助産師看護師法、保健医療福祉システムと看護、看護教育、看護ケアのマネジメント、災害看護、国際看護などの基礎的な知識について概説した。最終回の講義では、「今後の看護の方向性と課題」をテーマとしてレポート作成と発表を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準は試験60%、レポート30%、発表10%で、総合評価を行った。最終的な成績の平均値は81(±7)点であり、再試対象者は0名であった。 ②グループ学習後の自己評価(6回目の講義後に実施)について、「人間」「健康」「環境」「看護」の各概念に対して「理解が深まった」とする肯定的評価は、全体の92%であった。グループ学習時の「人の意見を聞くようにした」は、全体の93%が肯定的評価であった。「自己学習の内容をレポートに整理できた」は、全体の92%が肯定的評価であった。 ③全講義終了後の授業評価での学修到達度は「自分なりの目標達成」は、「かなりそうだと思う」(22.1%)、「わりにそうだと思う」(48%)、「まあまあそうだと思う」(28%)であり、98%の学生は肯定的な評価であった。 ④学習量については、1回30分程度以上の予習0回(32%)、復習0回(39%)であり、シラバスを参考にした人 ⑤学習のための情報利用では、図書館、文献の利用が53%であり、インターネットのホームページの利用 は44%であった。 が74%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見た妥当性 看護学概論は、看護専門科目であり、1年次前期の看護実践の基盤となる科目に位置付けられ、必修である。学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見た内容的妥当性 学習到達度の自己評価では、 「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」などの項目について、全員が肯定的評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考え。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①グループ学習と学習成果発表会を行ったことについては、グループ学習の自己評価で肯定的な評価を得たので、今後もグループ学習の導入を検討する。 ②授業評価において、「説明が理解しやすいものであった」という項目は81%が肯定的評価であるが、そうでない学生もいるので、講義での説明の内容と方法につい て今後、検討していく。 授業の進め方について、初回にシラバスの配布・説明をしたが、参考にした人が44%であったため、今後は、毎回の授業でシラバスの学習内容、予習、復習の内容 の確認を入れるようにする。 図書館の文献利用が53%と少ないので、活用するように説明していく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学習の到達目標は全体的にやや達成できたと考える。 グループ学習は、看護概念を相互に学びあい、理解を助けるのに効果的であった。しかし、入学直後の1年次前期は、学生がレポートの書き方やグループ学習に不慣 れであるため、次年度は課題の時期、内容、量について検討する。また、知識の説明が必要な事項については、主体的学習がすすめられるように、説明の方法と内 容を工夫する。
-----------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護技術論	1	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は基礎看護学領域のA講師の担当であった。A講師は同領域の教員の支援を受け、コミュニケーションに関する授業を実施したが、協議の結果、左記のような支援を継続しながらA講師が本科目の授業を継続することは困難であると判断された。よって2名の教授と1名の講師で科目を分担し授業を行うこととなった。本科目は看護学科1年次にとって、初めての看護の専門科目となる。このため、学生に「看護と何か、看護技術とは何かを伝える」「患者の気持ちを考え、配慮できる」「国家試験の出題基準を網羅する」を軸に担当教員で調整を行い授業を実施した。またこの科目は早期看護学実習と連動しているため、特に「環境」の授業に関しては、この知識・技術を活用して実習に臨み学びを深めることが出来るように配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度の本科目の授業は、上記に記載した方法で実施することとなったため、1名の担当教員が総合的に評価することは困難な状況である。しかし学生による到達度自己評価においては「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.8)を筆頭に、全項目で4.3以上の平均値であったことから、教員が授業内容によって交代することとなったものの、学生の学びを支援することはできたと考える。達成度評価は、試験:60%、実習レポート等の提出物:30%、レポート以外の提出物:5%、参加度:5%による総合評価とし、試験は各担当が合同で作成した。最終成績の平均値は76.1±6.37点(最高91点、最低62点)で、成績の内訳は、秀2名(1.8%)、優37名(33%)、良58名(51.8%)、可15名(13.4%)で、不可はいなかった。また早期実習の平均値は30%中、21.35%であったため、これらの達成状況を鑑みると全体を通して達成できたと考えるが、教員がオムニバスに交代しながらの開講であり、学生の負担がなかったとはいえ、授業準備が整った状況であったなら、もっと学生の達成度を向上させることができたとも考えられ、「やや達成」と評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護技術」の基本的知識と技術の基本である。このため1年次前期に開講されることは重要である。学習到達自己評価は、全項目が4.3以上の平均値を示しており、また自由記述内でも「色々学ぶことができた」「わかりやすく理解が早くできた」などの意見があった。また早期看護学実習の行いに「あたって、学生は環境整備やシーツ交換などの技術習得にも取り組み、これらを行う根拠理解にも取り組んでいた。また患者や医療従事者とのコミュニケーションも積極的に図り、実習評価も平均で21.3%を確保できたことから内容はずみずの妥当性を得ていたと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記に記した通り、今回は複数の教員が授業を分担して実施したため、次年度はこのようなことがないようにしなくてはならない。授業の質評価に関しては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.8)を筆頭に、全ての項目で4.1以上の評価を得ることができた。とくに左記の参加機会に関しては、授業後に演習をして考える時間を確保し、多くの学生に発表する機会を設けたことが影響していると思われ、主体的に学び、暗記から理解する学習への移行を今後も支援していきたい。また演習課題を作成したことで、学生はシラバスに示した通りの予習・復習に取り組み、図書館等の利用も半数以上の学生が行えたことから主体的な学習の支援ができたと評価する。学生は卒業後は責任の重い職業につくことになる。このため今から主体的に学び社会人基礎力を高める教育を実践していく必要がある。このためNaname.netを積極的に使用した。このシステムを活用することに、学生からはいくつかの自由意見もあったが、今後は電子ツールを活用することも就職に影響してくるため、これらのシステムは今後も活用していく予定である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、授業担当者が急遽変更され、授業の構成も当日に変更されるなど、学生に迷惑をかけることがあったことは否めない。しかし、達成度自己評価、授業の質評価、学習量の評価、自由意見より、学生には、まずまずの授業満足を与えることができ、素直に安心している。また総合評価においても不可はなく、平均値も76.1±6.37点であった。看護技術の重要性を理解できた学生は、時間外も積極的に技術習得のため、現在も自主練習に取り組んでいる。この自主練習を実施する学生は昨年度よりもはるかに多い。これらの学生の自主性の高さからも、この授業目標は概ね達成できたと考える。
------------------------------	---